# 調布市スポーツ推進計画（素案）

令和５年１２月

調布市

# 目次


第1章　スポーツ推進計画策定に当たって ..... - 1 -
1　策定の背景・趣旨 ..... - 2 -
2　計画の位置付け ..... - 4 -
3　計画の期間 ..... - 5 -
4　計画が対象とするスポーツの範囲 ..... - 6 -
5　スポーツの力 ..... - 8 -
第2章　スポーツを取り巻く現状と課題 ..... - 9 -
1　社会情勢の変化 ..... - 10 -
(1)人生100年時代の到来 ..... - 10 -
(2)持続可能な社会への移行 ..... - 10 -
(3)多様性を認め合うまちの実現 ..... - 11 -
(4)国際スポーツ大会のレガシー ..... - 11 -
(5)デジタル技術革新の進展 ..... - 11 -
2　国や都の動向からみる社会潮流 ..... - 12 -
(1)国の潮流 ..... - 12 -
(2)都の潮流 ..... - 14 -
3　市を取り巻く現況及び市の特徴 ..... - 15 -
(1)スポーツをする場 ..... - 15 -
(2)スポーツを支える担い手 ..... - 16 -
(3)スポーツによるにぎわいの創出 ..... - 18 -
4　市のスポーツ推進の現状 ..... - 22 -
(1)「する」スポーツについて ..... - 22 -
(2)「みる」スポーツについて ..... - 24 -
(3)「ささえる」スポーツについて ..... - 26 -
(4)子どものスポーツについて ..... - 27 -
(5)障害者スポーツ(パラスポーツ)について ..... - 29 -
5　計画策定の視点 ..... - 31 -
第3章　市の目指す姿 ..... - 33 -
1　将来像 ..... - 34 -
2　基本目標 ..... - 35 -
基本目標1　スポーツ活動の推進 ..... - 36 -
基本目標2　スポーツ環境の充実 ..... - 38 -
基本目標3　スポーツ資源を活用したにぎわいの創出・交流の促進 ..... - 39 -
3　成果指標・目標値 ..... - 40 -
(1)成果指標・目標値 ..... - 40 -
(2)成果指標の考え方 ..... - 40 -
4　計画の全体像 ..... - 41 -
第4章　施策の展開 ..... - 43 -
1　体系図 ..... - 44 -
2　各施策 ..... - 46 -
基本目標1　スポーツ活動の推進 ..... - 46 -
基本目標2　スポーツ環境の充実 ..... - 56 -
基本目標3　スポーツ資源を活用したにぎわいの創出・交流の促進 ..... - 66 -
第5章　計画の着実な推進 ..... - 75 -
1　推進体制 ..... - 76 -
2　進行管理 ..... - 77 -

# 第１章　スポーツ推進計画策定に当たって

# 1　策定の背景・趣旨

現在の社会は，超高齢社会，高度情報化の進行や社会構造の変化により，ライフスタイルや価値観が変化，多様化しています。人々のスポーツ活動についても，生涯にわたる心豊かな市民生活，健康や生きがい，仲間づくりといった生活の質（QOL=Quality Of Life）や自己実現など多様な目的により行われています。一方，日常生活における運動不足による生活習慣病など，健康への関心も高まっています。

平成 23 年3月に発生した東日本大震災や，平成 28 年4月に発生した熊本地震は，未曽有の被害をもたらし，現在も全国で復興支援への取組が行われています。この間，「心身の健康や癒し」「地域・家族の絆」などが再認識され，様々なアスリートの復興に向けた活動や市民スポーツによる交流で「スポーツの力」が，人々に勇気や希望を与える活動として着目されています。

調布市でも，平成 25 年9月 28 日から 10 月 14 日まで「東日本大震災復興支援スポーツ祭東京 2013（第 68 回国民体育大会・第 13 回全国障害者スポーツ大会）」が開催され，メイン会場である東京スタジアム（味の素スタジアム）での開・閉会式をはじめ，サッカーと陸上競技，障害者スポーツ大会の陸上競技とボウリングが行われ，多くの市民がスポーツに親しむ機会となりました。

平成 25 年9月に開催が決定された東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会（以下，「東京2020大会という。」）の招致も被災地の復興の歩みと大会の歩みを重ね合わせながらスポーツを通した大きな力となるよう世界へアピールされました。また，平成 27 年9月には，ラグビーワールドカップ2019™日本大会（以下，「ラグビーワールドカップ2019」という。）の東京都の試合会場が新国立競技場から調布市にある東京スタジアム（味の素スタジアム）で開催されることが決定しました。市は，こうした世界最大級のスポーツイベントの開催に向け，多様な主体と連携しながら，有形・無形のレガシー創出を目指し，様々な取組を展開しました。

アジア初となる 2019 年のラグビーワールドカップでは，海外から 24 万人を超える人々を含めて延べ 170 万人の観客がスタンド観戦し，また世界中の人々にデジタルメディアや SNS 等を通じて試合が配信されました。大会では日本代表チームが初の決勝トーナメントに進出し，「ワンチーム」をスローガンに結束して戦う姿を通して，多くの人々が感動を分かち合いました。加えて，スポーツにおけるホスピタリティの向上に向けた取組をはじめ，6,400 億円超とも言われる我が国への経済波及効果や，東日本大震災の被災地も含めた全国各地での開催がその地域の活性化に貢献するなど，我が国のスポーツ界や社会に大きく貢献することを通じて，スポーツの意義を再確認する契機となりました。市内の東京スタジアム（味の素スタジアム）においては，開会式・開幕戦を含む8試合が行われ，約38万人の観客が訪れるとともに，調布駅周辺では東京都が主催するファンゾーンが開催され，16日間で延べ約13万人が訪れました。これらのことは，多くの市民の記憶に刻まれ，スポーツに対する関心や期待感が高まり，翌年に予定されていた東京 2020 大会に向けた機運の醸成につながりました。

しかしながら，令和2年に入り，世界的な規模で，新型コロナウイルス感染症の拡大が急速に

進み，同年3月には，東京大会の1年延期が決定しました。国内のスポーツイベント等の開催自粛や全国一斉の学校休業要請が行われる中，同年4月には，我が国初の緊急事態宣言が発令され，人々の日常生活は一変し，スポーツ活動どころか外出することすらはばかられるような厳しい環境下での生活を送らざるを得なくなりました。

他方，新型コロナウイルス感染症の影響下にあって，様々なスポーツ活動が中止・延期等を余儀なくされ，スポーツに親しむ機会が失われていった一方で，我が国のスポーツ関係者は，そうした状況を打開するため，ガイドラインを策定して感染症対策を徹底し，無観客開催や入場者数制限，あるいはデジタルを活用した新しい観戦方法の導入といった様々な創意工夫を凝らしながら，スポーツイベントや児童・生徒，学生などの大会を開催するなど，スポーツを通じて，人々や社会を勇気づける取組，日常を取り戻す取組が続けられました。

こうした状況の中，令和3年夏，原則無観客での実施とはなりましたが，1年延期された東京大会が開催され，世界中から集まったトップアスリートによる数々の熱戦が繰り広げられ，国内の多くの人々にその様子が届けられました。市内では，東京スタジアム（味の素スタジアム），武蔵野の森総合スポーツプラザ，都立武蔵野の森公園において6競技が開催され，無観客ながらも，世界最高峰のアスリートの熱戦が調布から世界へ向けて配信されました。

市は，こうしたラグビーワールドカップ 2019 及び東京2020大会を契機としたスポーツ機運の高まりを，今後ともレガシーとして継承・発展させていくことが重要です。とりわけ，東京大会においては，「多様性と調和」を基本的なコンセプトの一つとして，「オリ・パラ一体」がキーワードとしてあげられ，選手同士の交流や双方の競技等への理解が進みました。こうした大会全体を通して，あらゆる面での違いを受け入れて，互いに認め合う共生社会を育むことの重要性が改めて認識されました。市においても，大会を契機としたパラスポーツの普及・啓発，障害当事者の運動機会の創出や障害理解の促進への取組などを更に推し進め，共生社会の充実を図っていく必要があります。

また，市内の味の素スタジアムや武蔵野の森総合スポーツプラザを含むエリアは，多摩地域の一大スポーツ拠点となっており，市内を活動拠点とするFC東京をはじめとしたトッププロスポーツチーム等とのパートナーシップを強化しながら，豊富なスポーツ資源を生かしたまちづくりを進めています。

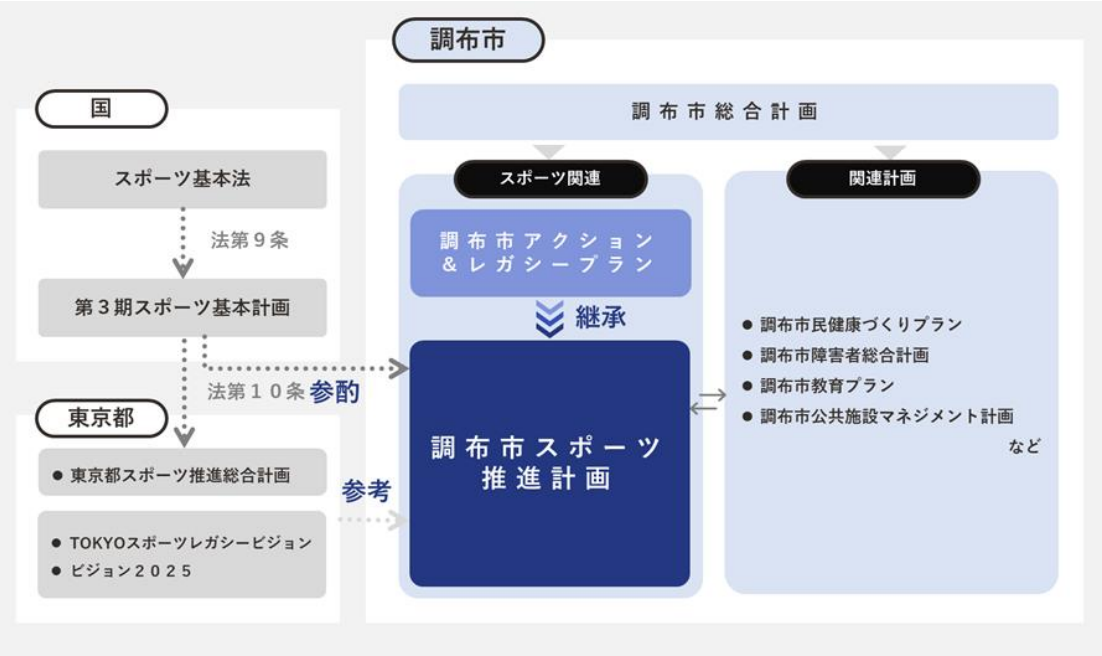
本スポーツ推進計画は，こうした背景を踏まえ，市のスポーツを取り巻く現状と課題を整理し，豊富なスポーツ資源を活用しつつ，スポーツを「する」「みる」「ささえる」の視点から，スポーツ推進に向けた方針や施策を体系化するものです。

## 2　計画の位置付け

本計画は，スポーツを取り巻く現状と課題を整理し，豊富なスポーツ資源を活用しつつ，スポーツを「する」「みる」「ささえる」の観点から，スポーツ施策を体系的に推進していくため，スポーツ基本法に基づく「地方スポーツ推進計画」として策定するものです。

あわせて，同計画は，ラグビーワールドカップ 2019 及び東京2020大会のレガシーを踏まえるとともに，両大会を契機とした有形・無形のレガシー創出に向け策定・推進した「調布市アクション&レガシープラン」のスポーツ分野における取組の継承・発展を図るべく策定するものです。

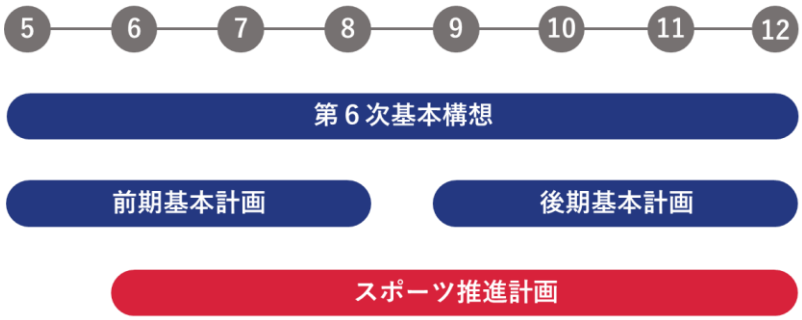
国や都の計画や，市の上位・関連計画との整合を図り，基本計画に掲げるスポーツ施策に基づいた事業を展開します。




図表 1　計画の位置づけ

# 3　計画の期間

本計画は，調布市基本計画の計画期間と合わせ，令和6（2024）年度から令和 12（2030）年度までの7年間とします。



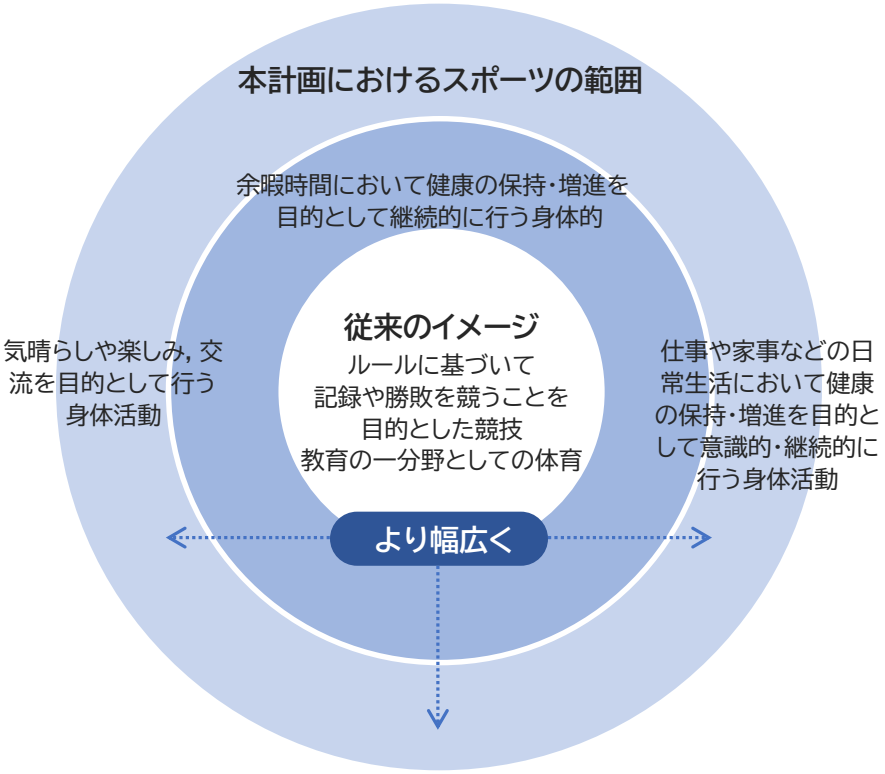

図表 2　計画期間

## 4　計画が対象とするスポーツの範囲

以下に示す国や都の捉え方を踏まえ，本計画では，野球やラグビー，サッカーなどの競技種目やレクリエーション活動のほか，健康のための散歩や体操などの軽い運動，さらに徒歩や自転車による通勤や買い物などの日常生活における活動など，意識的・継続的に行う様々な身体活動のことを「スポーツ」として幅広く捉え，これまでスポーツに縁のなかった方にも気軽に親しんでいただくことを目指します。

| 国の捉え方 | 都の捉え方 |
|---|---|
| ● 『スポーツは，「する」「みる」「ささえる」という様々な形での参画を通して，人々が感じる「楽しさ」や「喜び」に根源を持つ身体活動』<br>● 『その身体活動自体に，心身の健全な発達，健康・体力の保持増進，精神的な充足感の獲得，自律心などの精神の涵養等のあらゆる「自発的」な意思に基づいて行われるもの』 | ● スポーツをルールに基づいて勝敗や記録を競うものだけでなく，余暇時間や仕事時間等を問わず健康を目的に行われる身体活動，更には遊びや楽しみを目的とした身体活動（相応のエネルギー消費を伴うもの）まで，その全てを幅広く含むもの |

図表 3　国や都におけるスポーツの捉え方




図表 4　本計画におけるスポーツの範囲

## コラム：ｅスポーツ

ｅスポーツとは，「エレクトロニック・スポーツ」の略で，広義には，電子機器を用いて行う娯楽，競技，スポーツ全般を指す言葉であり，コンピューターゲーム，ビデオゲームを使った対戦をスポーツ競技として捉える際の名称です。

＜世界的な動向＞

平成 30 年（2018 年）時点では，IOC や国際競技団体による「オリンピック・サミット」の声明において，ｅスポーツについてオリンピック種目とすることは時期尚早であり，スポーツという言葉を使うことについて更なる対話と研究が必要と表明されました。一方で同年，「アジア版オリンピック」とも言われるアジア競技大会（第 18 回大会）ではｅスポーツが公開競技として実施され，翌 19 回大会では正式種目として採用され，「FIFAOnline4（サッカーゲーム）」等７種目が設定されました。

令和３（2021）年には，IOC の公式スポーツ大会として，野球，自転車競技，ボート競技，セーリング，モータースポーツの５種目で「オリンピック・バーチャル・シリーズ」が開催されました。

＜国内での動向＞

ｅスポーツについては，現時点において様々な捉え方があります。

国民体育大会では，愛媛大会（2017 年），福井大会（2018 年）の文化プログラムとしてｅスポーツ大会が実施されました。また，茨城大会（2019 年）以降の文化プログラムでは，都道府県対抗の形式での実施が予定されています。

また 60 歳以上のスポーツの祭典「全国健康福祉祭（ねんりんピック）」でも鳥取大会（2024 年）から，ｅスポーツとして「太鼓の達人」が正式種目となるなど，シニアスポーツへの展開もみられます。

政府としても平成 30 年（2018 年）の段階から「未来投資戦略 2018」において，「新たな成長領域として注目される ｅ スポーツについて，健全な発展のための適切な環境整備に取り組む。」と記載しており，内閣府の知的財産戦略推進事務局が毎年まとめている知的財産推進計画 2019 においても，「コンテンツ分野における新たな成長領域として注目されているｅスポーツについて，関係省庁において，制度的課題の解消など健全な発展のため適切な環境整備に必要に応じて取り組むとともに，産学官やコミュニティが連携した取組を通じコンテンツだけでなく周辺関連産業への市場の裾野の拡大や，社会的意義・波及効果について検討を行うことが必要である。」と記載されています。

その他，令和元年度には経済産業省の旗振りのもと，ｅスポーツを活性化させるための方策に関する検討会が発足し，市場の成長可能性や社会的意義について報告がなされています。

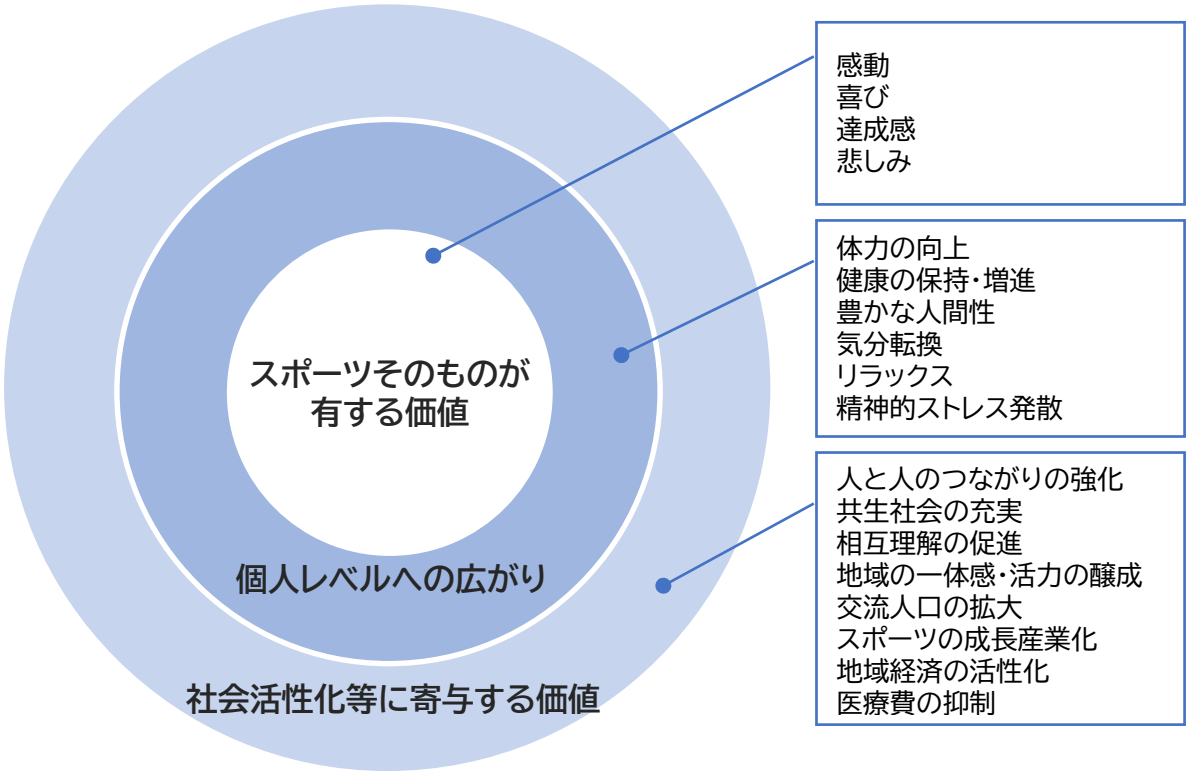
## 5　スポーツの力

人はスポーツを行うことによって，喜びや達成感を得たり，悲しみや挫折感を覚えたりもします。また，選手がスポーツに懸命に取り組む姿は，多くの人に感動を与えます。これらは，性別や年齢，国籍を問わず誰もがスポーツから直接享受できるものであり，スポーツの内在的な力，いわば「スポーツそのものが有する価値」（Well-being）です。

さらには，『スポーツの力』はこれだけに止まらず，周囲にも波及します。スポーツを継続的に実施することで体力が向上し，市民一人一人の健康の維持・増進に寄与するとともに，スポーツを通した人と人とのつながりの強化，地域経済の活性化など，スポーツの外在的な力，いわば「スポーツが社会活性化等に寄与する価値」といった側面もあります。

このように，スポーツには，市民の生活向上に重要な役割を果たす多様な力が秘められています。

市は，これらの『スポーツの力』を全ての市民が享受できるようスポーツ振興に取り組みます。




図表 5　スポーツに期待される効果

# 第２章　スポーツを取り巻く現状と課題

# 1　社会情勢の変化

## （1）人生１００年時代の到来

日本人の健康寿命は世界最高水準であり，更なる延伸が予想されています。こうした背景を受け，政府は「人生100年時代構想会議」を立ち上げ，幼少期から高齢者まで全ての人々が元気に活躍し続けることができる社会の実現を目指しています。人生100年時代の基盤は，一人ひとりの心身の健康であり，スポーツは市民の健康づくりや仲間づくりに寄与する活動として期待できます。

## （2）持続可能な社会への移行

SDGs（持続可能な開発目標）とは，平成27（2015）年9月の国連サミットで採択された令和12（2030）年までの国際目標です。持続可能な世界を実現するための 17 のゴール（目標）から構成されており，スポーツは健康，教育，コミュニティ強化などに寄与するものとして期待されています。

図表 6　SDGs ロゴおよびアイコン

## （３）多様性を認め合うまちの実現

「共生社会」とは，障害のある方をはじめ，配慮が必要な人々が積極的に参加・貢献していくことができる社会であり，国は，このような社会を目指すことを最も積極的に取り組むべき重要な課題ととらえています。

スポーツには，ジェンダー平等をはじめとする幅広い社会課題の解決に寄与する力があると期待されています。一方で，我が国における各種競技団体の役員の女性参加は世界各国と比べると遅れており，東京2020大会の開催を通じて，ジェンダー平等に対する国民の関心が高まりました。

これからは，スポーツに親しむ場においても，性別，年齢，障害の有無，国籍等に関わらず，多様性を尊重し合うことが重要です。

## （４）国際スポーツ大会のレガシー

令和元年（2019年）にはラグビーワールドカップ 2019 が開催され，開幕前の予想を大きく上回る盛り上がりを見せました。また，東京 2020 大会は新型コロナウイルス感染症の感染拡大により，開催が1年延期となりましたが，安全・安心に大会が開催されました。

このような国際スポーツ大会を契機に実施したパブリックビューイングやホストタウン交流，スポーツに対する機運の高まりなど，レガシーを生かした取組が求められます。

## （５）デジタル技術革新の進展

現在，ICT，AI（人口知能），VR（仮想現実）・AR（拡張現実）などの技術開発が急速に進展しています。これらの技術は，新しい産業の創出・発展や企業の生産性向上のみならず，人々の働き方やライフスタイル，健康管理，教育など，市民の生活に関わるあらゆる分野での活用が期待されます。スポーツ分野においても，個人・法人を問わないトレーニング動画のオンライン配信や，VR・ARを活用した新たなスポーツなど，多様な楽しみ方の創出が期待できます。

# 2　国や都の動向からみる社会潮流

## （1）国の潮流

第1期計画が策定された平成 24 年以降，スポーツ庁の新設と，それに伴う障害者スポーツの厚生労働省からの移管，第2期スポーツ基本計画の策定など，新たなスポーツ政策が次々に展開されてきました。また，第2期計画が策定された平成 29 年度以降も，ラグビーワールドカップ 2019 や東京 2020 大会等の国際的なスポーツ大会の開催，日本体育協会から日本スポーツ協会への名称変更など，スポーツに対する機運の醸成やパラダイムシフト（認識の変化）が生じています。また，新型コロナウイルス感染症の拡大は，心身の健康づくりや人と人とのつながりの重要性を改めて認識するきっかけとなりました。

このような社会情勢の変化を受けて，スポーツを推進する意義や目的は，従来から認識されてきた心身の健康づくりや人格形成，競技力向上という枠を超え，人々の暮らしをより豊かにするもの，地域コミュニティの形成や共生社会を育むこと，地域経済の活性化に寄与するものとして考えられるようになってきています。そのため，スポーツは個人と地域のどちらの視点においても，ますます欠かせない存在となっています。

このように，東京 2020 大会の基本コンセプトの一つとなった多様性と調和や，共生社会への関心が一層広まる中，令和3年度に策定された第3期スポーツ基本計画では，スポーツを「する」「みる」「ささえる」ことを真に実現できる社会を目指すため，次の3つの視点が必要になるとされています。

① 社会の変化や状況に応じて，既存の仕組みにとらわれずに柔軟に対応するというスポーツを『つくる／はぐくむ』という視点
② 様々な立場・背景・特性を有した人・組織が『あつまり』，『ともに』活動し，『つながり』を感じながらスポーツに取り組める社会の実現を目指すという視点
③ 性別，年齢，障害の有無，経済的事情，地域事情等にかかわらず，全ての人がスポーツにアクセスできるような社会の実現・機運の醸成を目指すという視点

このように，変化・充実しつつあるスポーツの意義を踏まえつつ，持続可能な社会の実現を目指すべく，社会情勢の変化を的確にとらえ，スポーツを推進していくことが求められています。

**第２期計画期間中の総括**

① 新型コロナウイルス感染症： ➤ 感染拡大により，スポーツ活動が制限

② 東京オリンピック・パラリンピック競技大会：➤ １年延期後，原則無観客の中で開催

③ その他社会状況の変化： ➤ 人口減少・高齢化の進行➤ 地域間格差の広がり

➤ ＤＸなど急速な技術革新➤ ライフスタイルの変化

➤ 持続可能な社会や共生社会への移行

こうした出来事等を通じて，改めて確認された

・ 「楽しさ」「喜び」「自発性」に基づき行われる本質的な『スポーツそのものが有する価値』（Well-being）

・ スポーツを通じた地域活性化，健康増進による健康長寿社会の実現，経済発展，国際理解の促進など『スポーツが社会活性化等に寄与する価値』を更に高める

**第３期計画：新たな３つの視点** スポーツを「つくる / はぐくむ」

スポーツで「あつまり，ともに，つながる」

スポーツに「誰もがアクセスできる」

**第３期計画：総合的かつ計画的に取り組む 12 の施策**

①多様な主体におけるスポーツの機会創出 ②スポーツ界における DX の推進

③国際競技力の向上 ④スポーツの国際交流・協力

⑤スポーツによる健康増進 ⑥スポーツの成長産業化

⑦スポーツによる地方創生，まちづくり ⑧スポーツを通じた共生社会の実現

⑨スポーツ団体のガバナンス改革・経営力強化 ⑩スポーツ推進のためのハード，ソフト，人材

⑪スポーツを実施する者の安全・安心の確保 ⑫スポーツ・インテグリティの確保

図表 7 第３期スポーツ基本計画の概要

## （２）都の潮流

スポーツを通じて東京の未来を創造していくための羅針盤として「東京都スポーツ推進総合計画」が平成30(2018)年3月に策定され，「スポーツの力で東京の未来を創る」の基本理念と，以下3つの政策目標が掲げられています。

また，東京2020大会を通じて人々のスポーツに対する関心が高まったこの機会を捉え，スポーツを東京に一層根づかせるため，「TOKYO スポーツレガシービジョン」が令和４年１月に公表されました。この中では，味の素スタジアムや武蔵野の森総合スポーツプラザなど都立スポーツ施設の活用が示されており，令和 5(2023)年 3 月にはパラスポーツの競技力向上の拠点及び障害のある人もない人もパラスポーツに親しむことのできる普及振興の場として「東京都パラスポーツトレーニングセンター」が味の素スタジアム内に開所されました。

令和 7(2025)年には，「世界陸上競技選手権大会」及び「デフリンピック」といった国際スポーツ大会が東京で開催されます。東京 2020 大会のレガシーを引き継ぎ，新しいフィールドを広げるべく，両大会を通じ，スポーツの力によって東京の未来を創るため，令和5年2月に「ビジョン2025」が策定されました。「ビジョン2025」では，“みんなが つながる”，“世界の人々が出会う”，“こどもたちが 夢をみる”，“未来へ つなぐ”，“みんなで 創る”の5つの柱と，基本的な方針として「ポーツで新しいフィールドを広げ， 全ての人が輝くインクルーシブな街・東京へ」を掲げています。

図表 8　東京都のスポーツ関連計画及び政策の柱

| 施設 | 活用内容 |
|---|---|
| 武蔵野の森総合スポーツプラザ | ・多摩のスポーツ拠点としての更なる活用<br>（大規模大会誘致，大会レガシーの活用など）<br>・エンタメなど多様な利用の促進<br>（コンサート，ダンス競技大会など） |
| 味の素スタジアム | ・スポーツとエンターテインメントによる更なる活用促進<br>（サッカーと音楽イベントの同時開催など）<br>・地域と連携した施策の展開<br>（周辺施設と連携したウォーキングイベントなど） |

図表 9　ＴＯＫＹＯスポーツレガシービジョンにおける市内立地施設の位置づけ

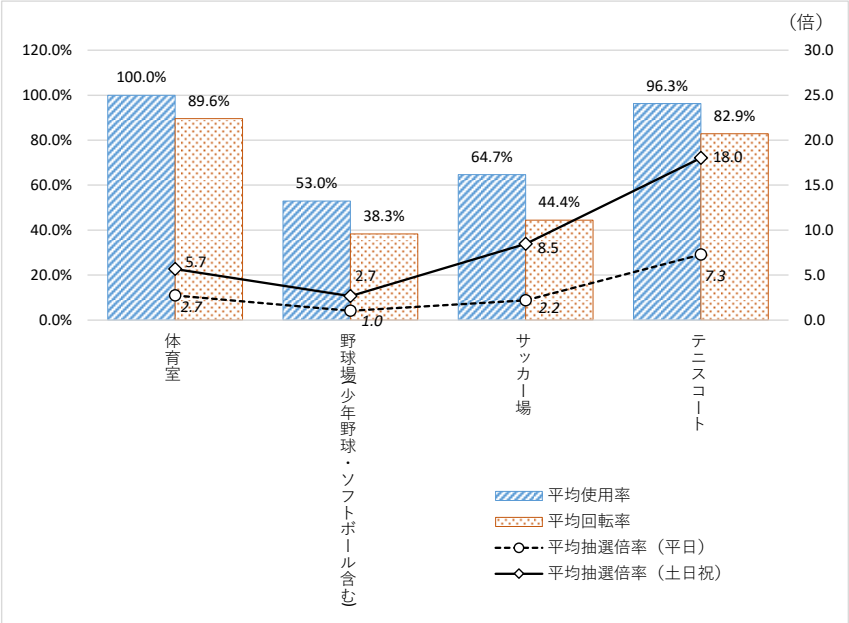
# 3　市を取り巻く現況及び市の特徴

## （1）スポーツをする場

### ア　公共スポーツ施設

市内には，屋内･屋外の様々な公共スポーツ施設があります。また，市の西部には，都立施設である味の素スタジアムや武蔵野の森総合スポーツプラザがあり，多摩地域の一大スポーツ拠点となっています。

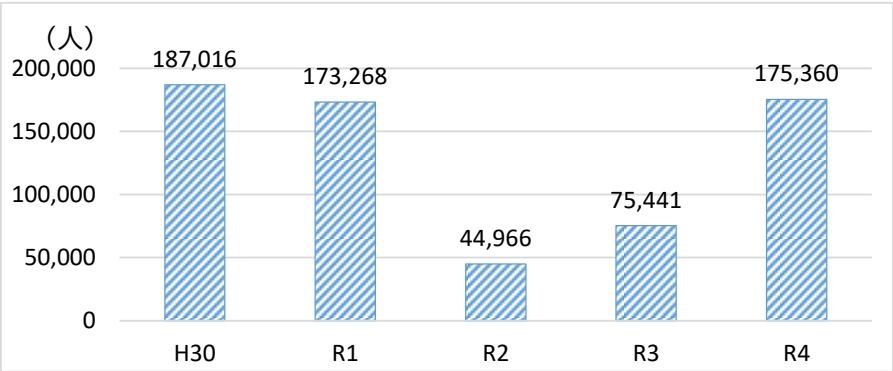
市立スポーツ施設の室場別平均抽選倍率は，土日祝日が高く，特にテニスコートの倍率が高い傾向にあります。また，使用率は，体育室や運動広場などでは 100%となっています。




図表 10　主な市立スポーツ施設の室場別抽選倍率・稼働率

### イ　学校施設

市は，社会教育及び社会体育の振興，普及を進めながら健康の増進を図ることを目的に，学校施設の開放を行っています。




図表 11　学校施設開放延べ利用者数の推移（体育館及び校庭）

## （2）スポーツを支える担い手

### ア　スポーツ推進委員

調布市スポーツ推進委員は，地域のスポーツ推進を担う非常勤の公務員であり，住民に対するスポーツの実技の指導を行う指導者であるだけでなく，スポーツ推進のための事業実施に係る連絡調整やスポーツに関する指導や助言を行う，地域スポーツ振興のコーディネーターとも言える存在です。

調布市スポーツ推進委員会は，現在，小学校区から20人，調布市レクリエーション協会から1人の計21人で構成されており，市のスポーツ事業への協力だけでなく，地域住民と連携し，地域に根差したスポーツ・レクリエーション振興事業を展開しており，市のスポーツ行政の推進者として重要な役割を担っています。

### イ　総合型地域スポーツクラブ

総合型地域スポーツクラブは，多種目，多世代，自主運営を特徴とした地域住民による自主的・主体的に運営されるスポーツクラブです。

市内唯一の総合型地域スポーツクラブである「調和SHC倶楽部」は，だれもが，いつでも，どこでも気軽にスポーツを楽しみ，また健康な体力つくりや，文化的な趣味を増やしながら地域の一人ひとりの力によって創り上げる総合型地域スポーツ・文化クラブとして，平成14年9月に設立されました。平成15年には「特定非営利活動法人（NPO）」認証を受け，子どもからお年寄りまで，みんなの笑顔が広がる魅力あるクラブを目指して本格的活動を展開しています。

### ウ　調布市スポーツ協会

公益社団法人調布市スポーツ協会は，調布市における体育・スポーツの振興を目的とした，各種イベント・大会，教室など，地域スポーツの場や機会の提供，パラスポーツの普及啓発，スポーツ指導者やスポーツボランティアの養成と活用，また指定管理者として総合体育館の管理・運営などを行っています。

平成4年に前身の「社団法人調布市体育協会」が設立され，平成24年に公益認定を受け，公益社団法人へ移行，令和5年に「調布市体育協会」から「調布市スポーツ協会」に名称変更しました。

現在，同協会には競技団体33団体，さらに各競技団体に計438団体が加盟し，会員数は計9，900人（令和5年3月31日現在）となっています。

## エ　スポーツボランティア

平成25年度の第68回国民体育大会・第13回全国障害者スポーツ大会（通称：スポーツ祭東京2013）を契機として，調布市スポーツ協会が「調布市スポーツボランティア」を立ち上げ，スポーツを「ささえる」人材の育成，活動の普及を目指し，市内で開催される市民スポーツまつりや市民駅伝競走大会などのスポーツイベント等での活動機会の提供を行っています。

令和5年度には，ボランティア制度をリニューアルするとともに，THE ROAD RACE TOKYO TAMA 2023（多摩地域で開催された自転車ロードレース（主催：GRAND CYCLE TOKYO 実行委員会，共催：東京都））におけるボランティア募集を契機として登録者も増加しており，より多くの方がボランティア活動に関われるよう，支援しています。

**コラム：東京 2020 大会に向けた「調布市おもてなしボランティア」**

東京 2020 大会では，組織委員会が運営主体となる大会ボランティアと東京都が運営主体となる都市ボランティアがありました。市は，両者が運営主体となるボランティアとは別に，市独自の「調布市おもてなしボランティア」を募集し，延べ約 400 人から応募がありました。おもてなしボランティアは，ラグビーワールドカップ 2019 期間中ファンゾーン周辺での取組など，大会を契機とした様々な場面で活動しました。新型コロナウイルス感染症の影響により，東京 2020 大会本番での活動は中止となりましたが，ラグビーワールドカップ 2019 等での活動の経験を生かし，スポーツボランティアを含め，地域のボランティア活動の継続に向けた支援を行いました。

ラグビーワールドカップ 2019 での活動の様子(通訳補助)

## （3）スポーツによるにぎわいの創出

### ア　トップスポーツチーム等との連携

FC東京や東芝ブレイブルーパス東京，東京サントリーサンゴリアス，読売巨人軍，NTT東日本バドミントン部など，トップスポーツチーム等と連携を図りながら，「する」「みる」「ささえる」の視点に基づいた，市民がスポーツに親しめる機会の充実や環境づくりを推進しています。

| FC 東京<br>（サッカー） | 読売巨人軍<br>（野球） | NTT 東日本<br>バドミントン部 | 東京サントリー<br>サンゴリアス<br>（ラグビー） | 東芝ブレイブ<br>ルーパス東京<br>（ラグビー） | 日本車いす<br>バスケットボール連盟 |
|---|---|---|---|---|---|

図表 12　市ゆかりのトップスポーツチーム等

### イ　多摩地域の一大スポーツ拠点

市の西部には，味の素スタジアムや武蔵野の森総合スポーツプラザ，調布基地跡地運動広場があり，多摩地域の一大スポーツ拠点を形成し，多摩地域のスポーツ振興に寄与しています。また，当該エリアは競技大会や地域スポーツの拠点，大規模イベントの会場として，地域の活性化やスポーツを通じたまちづくりの中核を担っています。

（左：味の素スタジアム，右：武蔵野の森総合スポーツプラザ）
図表 13　多摩地域の一大スポーツ拠点

### ウ　大型スポーツイベントの開催

令和元年（2019年）のラグビーワールドカップ2019では，東京スタジアム（味の素スタジアム）で開会式，開幕戦を含む8試合が行われ，約38万人が来場しました。また，調布駅前広場周辺で開催されたファンゾーン（東京都主催）には，16日間で延べ13万人が訪れました。大会を契機として，ラグビーを通じたスポーツ振興をはじめ，地域経済の活性化，青少年の健全育成等の多岐にわたる分野において実践した取組を後世に残すべく，令和3年4月に東芝ブレイブルーパス（現：東芝ブレイブルーパス東京），サントリーサンゴリアス（現：東京サントリーサンゴリアス），調布市，府中市，三鷹市の5者による連携協定を締結し，地域一体となってラグビー競技の普及に取り組んでいます。

1年延期となった東京2020大会では，市内の3つの競技会場（東京スタジアム（味の素スタジアム），武蔵野の森総合スポーツプラザ，都立武蔵野の森公園）において，6競技が開催され，その後，これらの競技会場を含むエリアについては，大会開催を象徴する場所として「武蔵野の森オリンピック・パラリンピックパーク」と名付けられ，大会の感動と記憶を後世に永く伝えられることになりました。大会を契機とした有形・無形のレガシー創出のため，これまで展開してきたソフト・ハード両面にわたる取組については，一過性のものとせず，大会のレガシーとして継承・発展させていく必要があります。

今後も，市内で開催される国際的・全国的なスポーツ大会や，トップスポーツチームの試合を契機とした市民スポーツの振興はもとより，スポーツによるまちのにぎわい創出を図っています。

| 年 | イベント |
|---|---|
| 2002 | FIFAワールドカップ2002（サッカー）<br>※サウジアラビア王国公認キャンプ地 |
| 2003 | アテネオリンピック・アジア2次予選（サッカー） |
| 2004 | U-23国際親善試合（サッカー） |
| 2010 | 東アジアサッカー選手権2010決勝大会 |
| 2013 | スポーツ祭東京2013 |
| 2016 | リポビタンDチャレンジカップ2016（ラグビー） |
| 2017 | キリンチャレンジカップ2017（サッカー） |
| 2017 | リポビタンDチャレンジカップ2017（ラグビー） |
| 2017 | EAFF E-1サッカー選手権2017決勝大会 |
| 2018 | リポビタンDチャレンジカップ2018（ラグビー） |
| 2019 | ラグビーワールドカップ2019日本大会 |
| 2021 | SAISON CARD CUP2021（サッカー（U-24）） |
| 2021 | 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会 |

図表 14　過去に味の素スタジアム（東京スタジアム）で開催された主な国際・国内スポーツ大会

| 年 | イベント |
|---|---|
| 2017 | 全日本フィギュアスケート選手権大会 |
| 2018 | 天皇杯第46回日本車いすバスケットボール選手権大会 |
| 2018 | 三菱電機WORLD CHALLENGE CUP2018（車いすバスケットボール） |
| 2018 | ダイハツ・ヨネックスジャパンオープン2018（バドミントン） |
| 2018 | 楽天・ジャパン・オープン・テニスチャンピオンシップス2018 |
| 2019 | 2019体操ワールドカップ東京大会 |
| 2019 | FIVBバレーボールネーションズリーグ2019男子東京大会 |
| 2019 | UIPM2019近代五種ワールドカップファイナル東京大会 |
| 2019 | ダイハツ・ヨネックスジャパンオープン2019　バドミントン選手権大会 |
| 2019 | 三菱電機WORLD CHALLENGE CUP2019（車いすバスケットボール） |
| 2019 | 春の高校バレー　第71回全日本バレーボール高等学校選手権大会 |
| 2019 | V.LEAGUE FINAL |
| 2019 | 天皇杯第47回日本車いすバスケットボール選手権大会 |
| 2019 | 内閣総理大臣杯　第62回全国空手道選手権大会 |
| 2019 | ウインターカップ2019第72回全国高等学校バスケットボール選手権大会 |
| 2020 | 春の高校バレー　第72回全日本バレーボール高等学校選手権大会 |
| 2020 | 令和2年度天皇杯・皇后杯全日本バレーボール選手権大会 |
| 2021 | 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会 |
| 2021 | ジュニアウインターカップ2020-2021第1回全国U15バスケットボール選手権大会 |
| 2021 | 第75回全日本総合バドミントン選手権大会 |
| 2022 | ジュニアウインターカップ2021-2022第2回全国U15バスケットボール選手権大会 |
| 2022 | 内閣総理大臣杯　第64回全国空手道選手権大会 |
| 2022 | 令和4年度天皇杯・皇后杯全日本バレーボール選手権大会 |
| 2022 | 第76回全日本総合バドミントン選手権大会 |
| 2023 | ジュニアウインターカップ2022-2023第3回全国U15バスケットボール選手権大会 |
| 2023 | Wリーグプレーオフセミファイナル・ファイナル |
| 2023 | 内閣総理大臣杯　第65回全国空手道選手権大会 |
| 2023 | 第76回全日本新体操選手権大会 |
| 2023 | 令和5年度天皇杯・皇后杯全日本バレーボール選手権大会 |
| 2023 | ウインターカップ2023第76回全国高等学校バスケットボール選手権大会 |
| 2023 | 第77回全日本総合バドミントン選手権大会 |

図表 15　過去に武蔵野の森総合スポーツプラザで開催された主な国際・国内スポーツ大会

### エ　スポーツを通じた共生社会の充実

東京 2020 パラリンピックを契機として，「パラハートちょうふ　つなげよう，ひろげよう，共に生きるまち」のキャッチフレーズを掲げ，子どもたちへのパラリンピック教育の実施や，パラスポーツに親しむ機会の創出，「調布市障害者スポーツの振興における協議体」における当事者の運動機会の創出に向けた取組など，共生社会の充実に向けて取り組んでいます。

パラハート
ちょうふ
つなげよう，ひろげよう，
共に生きるまち

図表 16　パラハートちょうふロゴ

### オ　市をあげてスポーツを応援する土壌

応援アスリートとして令和5（2023）年10月現在，13人のアスリートを認定し，市をあげて応援することで，アスリートの更なる飛躍を期待するとともに，市民のスポーツへの関心を高め，スポーツ振興へとつなげています。

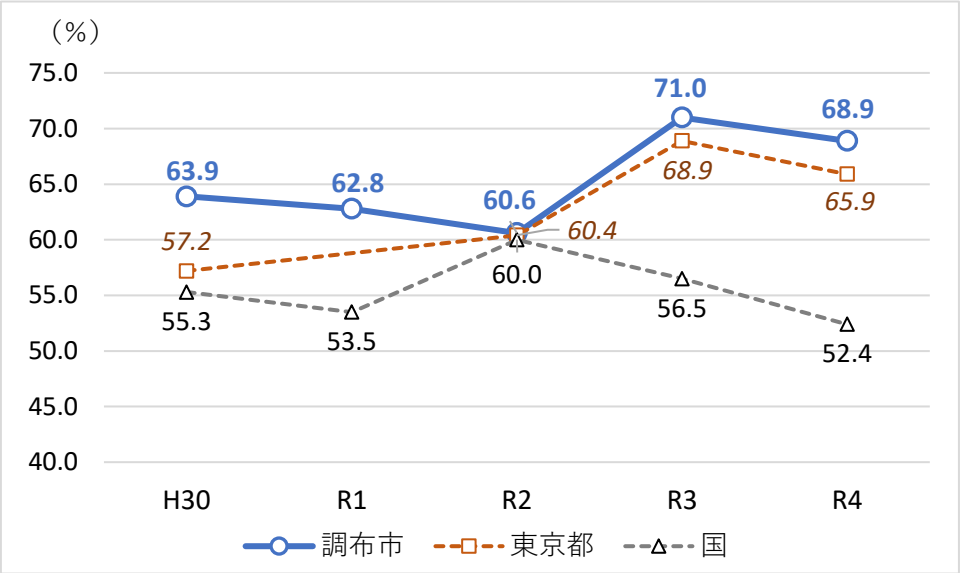
# 4　市のスポーツ推進の現状

令和4年度に実施した「調布市民のスポーツ活動に関する実態調査」の結果等を踏まえ，市のスポーツ推進の現状を整理します。

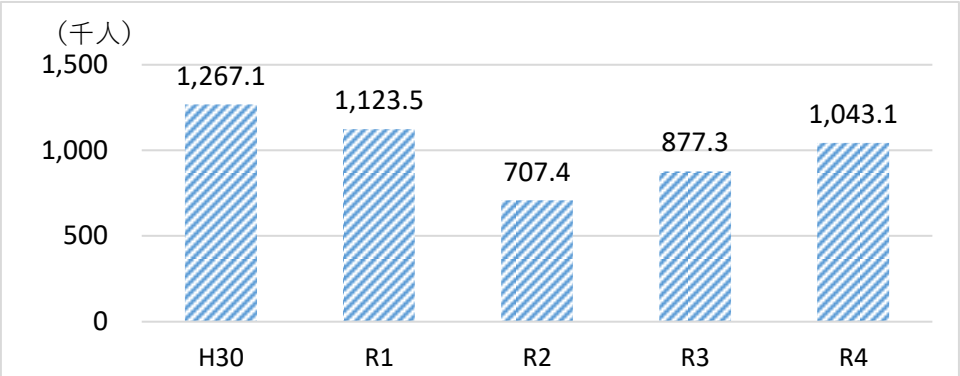
## （1）「する」スポーツについて

週に1回以上スポーツをする市民の割合（スポーツ実施率）は，令和元年度には 62.8%でしたが，新型コロナウイルス感染症が感染拡大した令和2年度には 60.6%まで低下したものの，その後コロナ禍前よりも高い水準となっています。

一方，市立スポーツ施設の利用者数について，平成30年度は120万人を超える状況でしたが，新型コロナウイルス感染症の影響により，令和2年度は約70万人に減少しました。その後，利用者数は徐々に回復しつつあり，令和 4 年度には約 104.4 万人となっています。



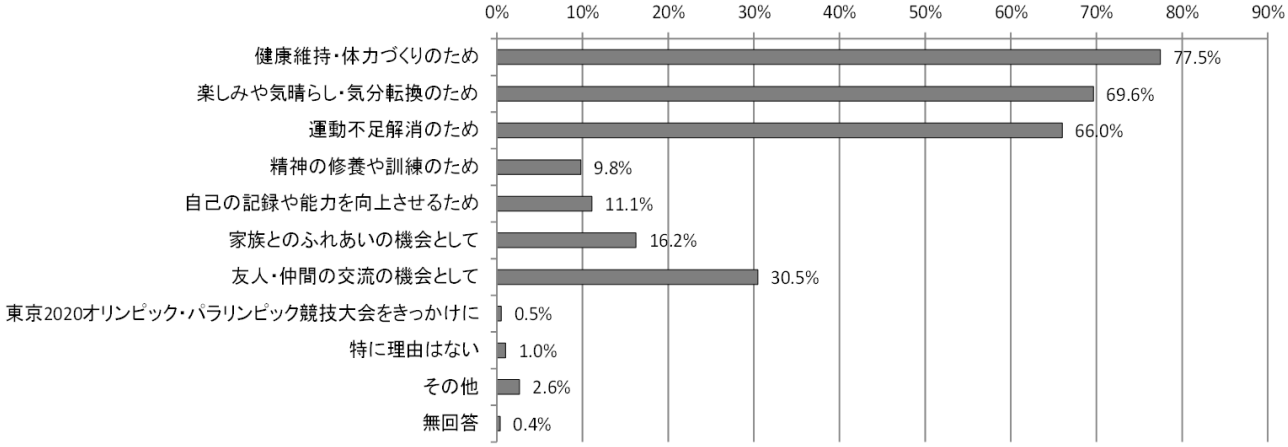

図表 17　週 1 回以上スポーツをする人の割合の推移（国・都比較）



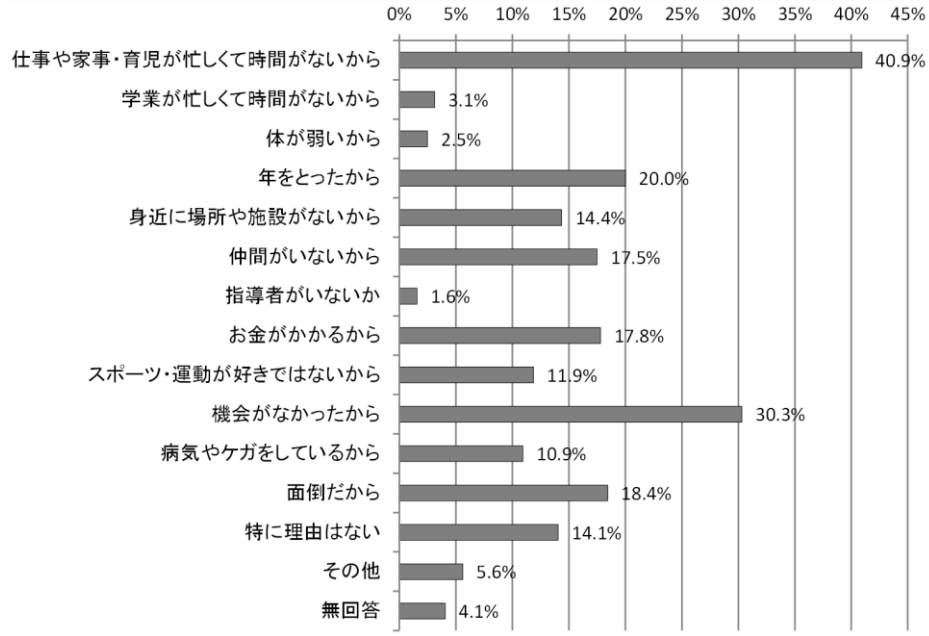

図表 18　市スポーツ施設利用者数（学校施設開放含む）の推移

運動・スポーツを実施した理由として,「健康維持・体力づくりのため」が 77.5%,「楽しみや気晴らし・気分転換のため」が 69.6%となっています。一方, 運動・スポーツを実施しなかった理由は,「仕事や家事・育児が忙しくて時間がないから」が 40.9%,「機会がなかったから」が 30.3%となっています。

また,新型コロナウイルス感染症の影響により, 運動・スポーツをする回数が「減った・やや減った」人が 41.7%となっています。

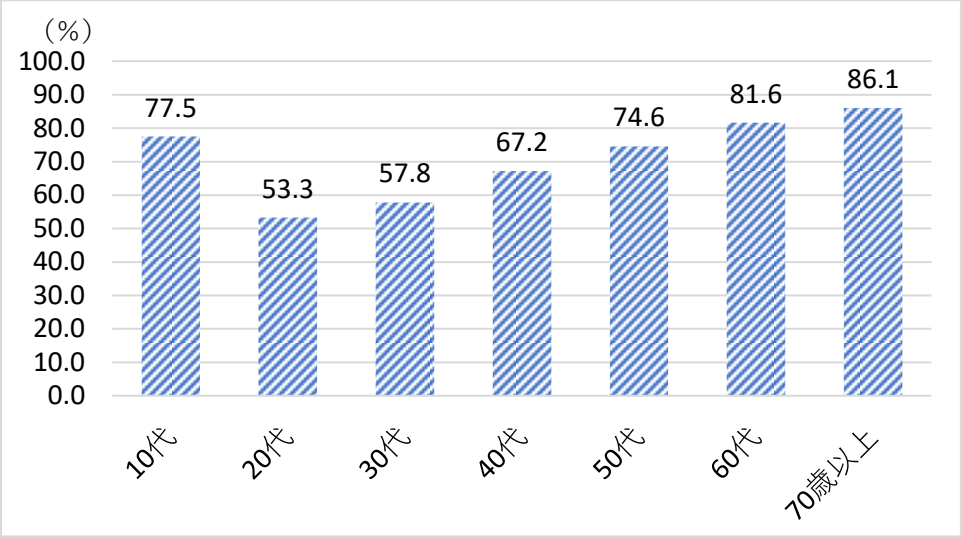



図表 19　スポーツの実施理由（n=794）




図表 20　スポーツを実施しなかった理由（n=320）

年代別では，週1回以上スポーツを実施している人の割合は，10代が 77.5%と比較的高い割合となっているものの，20代から40代が相対的に低い傾向にあります。一方，20代以降は年代を重ねるごとにスポーツ実施している人の割合が増え，60代以降は80%を超える状況となっています。

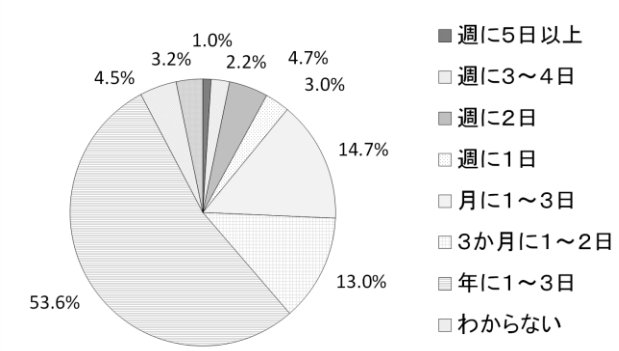



図表 21　（年代別）週 1 回以上スポーツを実施している人の割合（n=794）

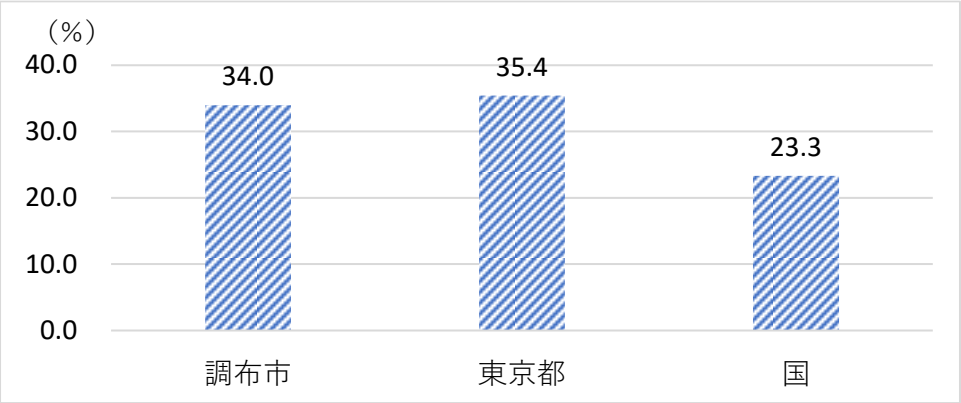
## （2）「みる」スポーツについて

1年間で週に1回以上スポーツ観戦をした人は 10.9%となっており，スポーツを観戦した理由として，「そのスポーツが好きだから」が 65.6%，「応援しているチームがあるから」が 28.2%となっています。

1 年間の現地観戦の有無を国や都と比較すると，東京都とほぼ同じ割合となっています。




図表 22　この 1 年間のスポーツ観戦頻度（n=401）




※調布市は,「なし・わからない」「無回答」以外を現地で観戦したものとしている。

図表 23　この１年間の現地でのスポーツ観戦有無

現地観戦について

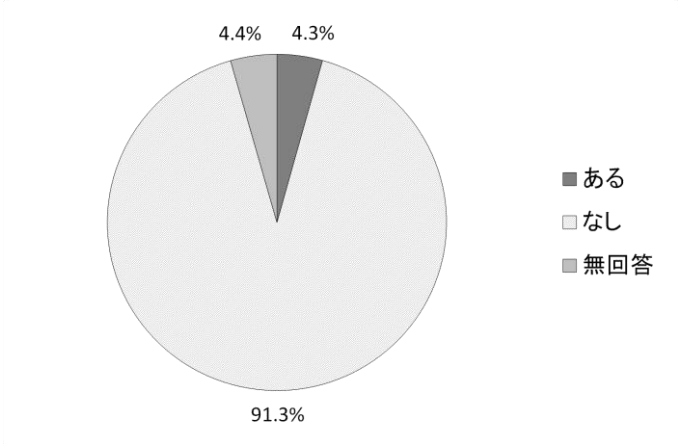
- 国:スポーツの実施状況等に関する世論調査（令和4年12月調査）
  Q35　あなたは, この１年間にどんなスポーツを観戦しましたか。
  「直接現地で」,「28　みなかった」76.7%以外

- 都民のスポーツ活動に関する実態調査（令和4年10月）
  問5　あなたは, この 1 年間にスタジアム・体育館・沿道などで実際にスポーツを観戦したことがありますか。観戦したスポーツをお選びください。
  「観戦しなかった」61.5%,「わからない」0.7%以外（「無回答」2.5%も除く）

## （3）「ささえる」スポーツについて

この1年間でボランティアを行った人は4.3%であり，ボランティアを行ったことがない人は91.3%となっています。

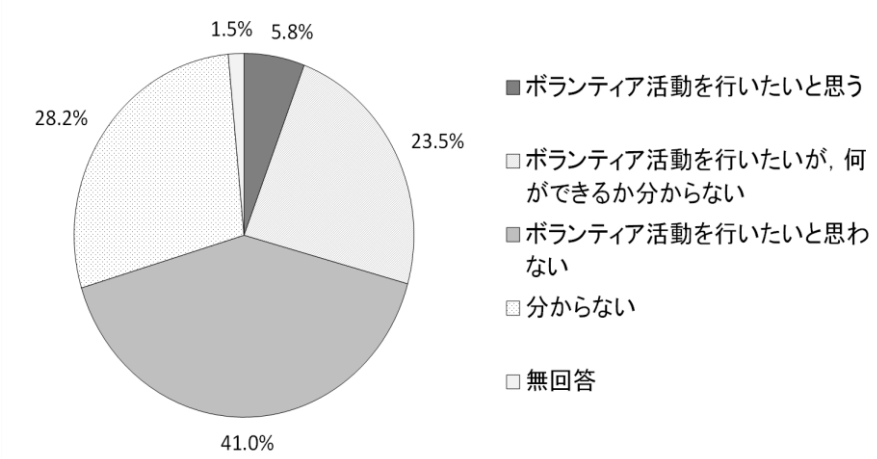
ボランティアを行った理由として，「スポーツが好きだから」が 45.1%，「好きなスポーツの普及・支援をしたいから」が 41.2%となっています。




図表 24　この１年間のボランティア活動の有無(N=1178)

今後のボランティア活動への参加意向は，「ボランティアを行いたいと思う」が5.8%「ボランティア活動を行いたいと思わない」が 41.0%，「ボランティア活動を行いたいが，何ができるか分からない」が 23.5%となっています。

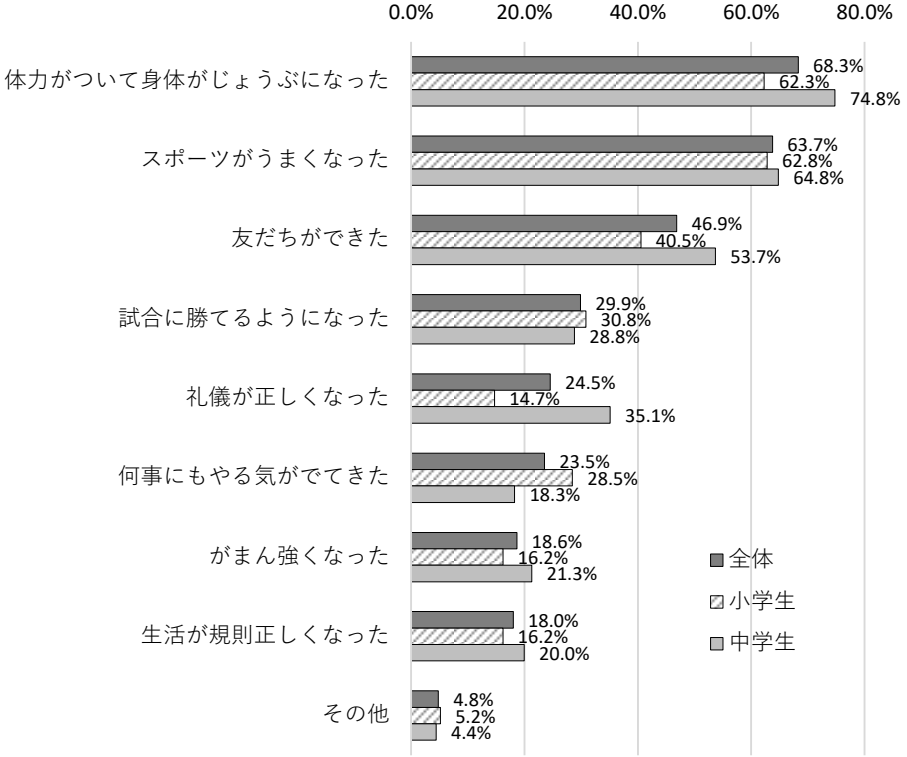
新型コロナの影響により，ボランティア活動回数が「減った・やや減った」人は 13.8%でした。




図表 25　今後のボランティア参加意向(n=1075)

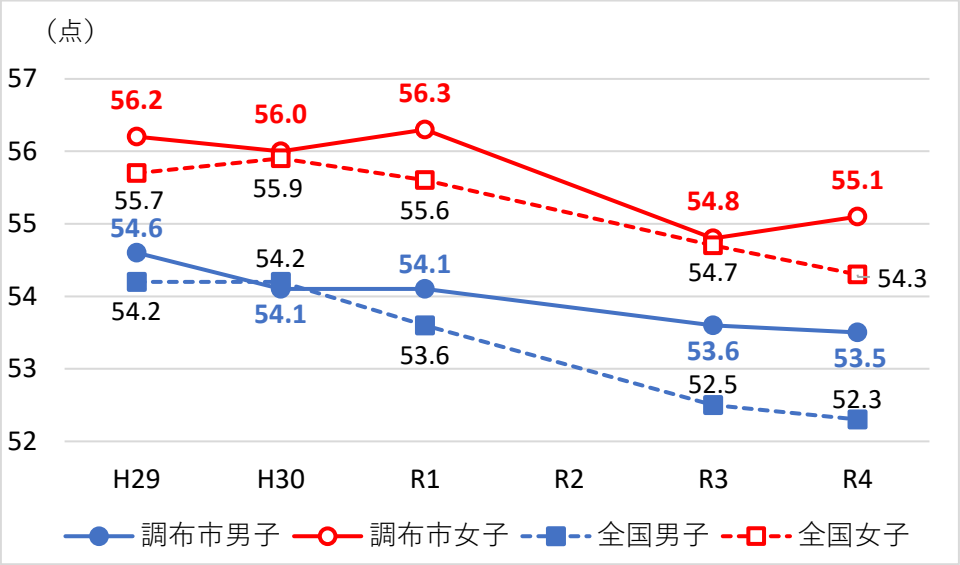
## （4）子どものスポーツについて

普段，体育の授業以外で週1回以上運動・スポーツを実施する子どもは 84.8%（小学生 89.3%，中学生 80.6%）となっています。運動・スポーツをやってよかったことは「体力がついて身体がじょうぶになった」が 68.3%，「スポーツがうまくなった」が 63.7%となっています。小学生，中学生とも上位 2 項目は同じですが，中学生では「体力がついてじょうぶになった」が多くなっています。

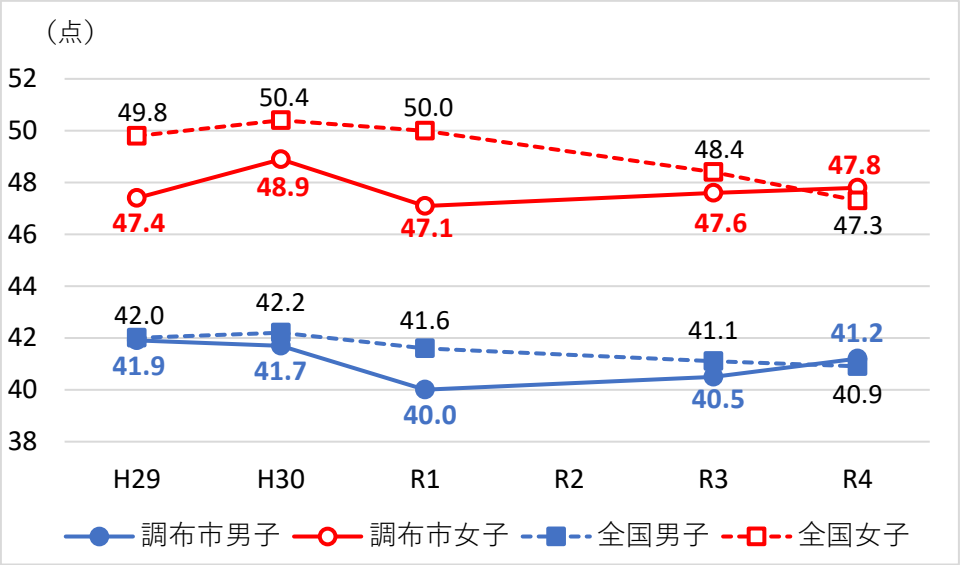



図表 26　運動・スポーツをやってよかったこと(N=2204)

子どもの体力・運動能力について，体力テストの合計点をみると，小学生・中学生及び男女ともに概ね横ばいに推移しています。またいずれの属性においても，直近値で全国平均を上回っています。とりわけ中学生は，全国的にコロナ禍の影響を受ける中で微増を続け，令和4年度には全国平均を上回る形となりました。（国の調査に合わせ，小学生は小5を，中学生は中2で比較）




図表 27　小学生体力合計点の推移（体力・運動能力・運動習慣等の調査（東京都））
全国体力・運動能力，運動習慣等調査（スポーツ庁）

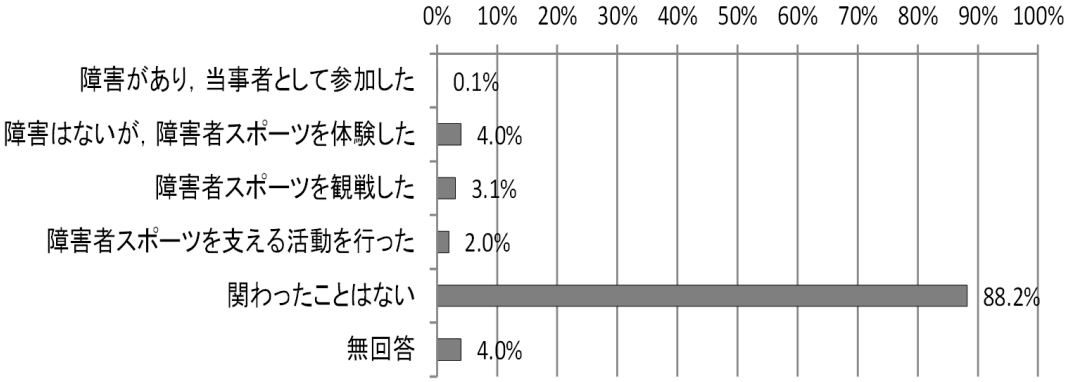



図表 28　中学生体力合計点の推移（体力・運動能力・運動習慣等の調査（東京都））
全国体力・運動能力，運動習慣等調査（スポーツ庁）

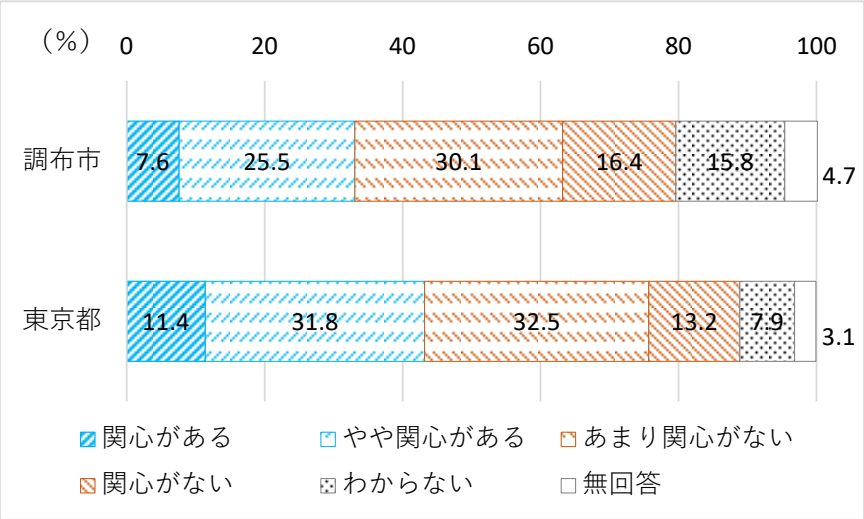
## （5）障害者スポーツ（パラスポーツ）について

障害者スポーツに関わったことがない人が 88.2%となっています。

障害者スポーツに「関心がある・やや関心がある」人は 33.1%,「あまり関心がない・関心がない」人は 46.5%となっています。



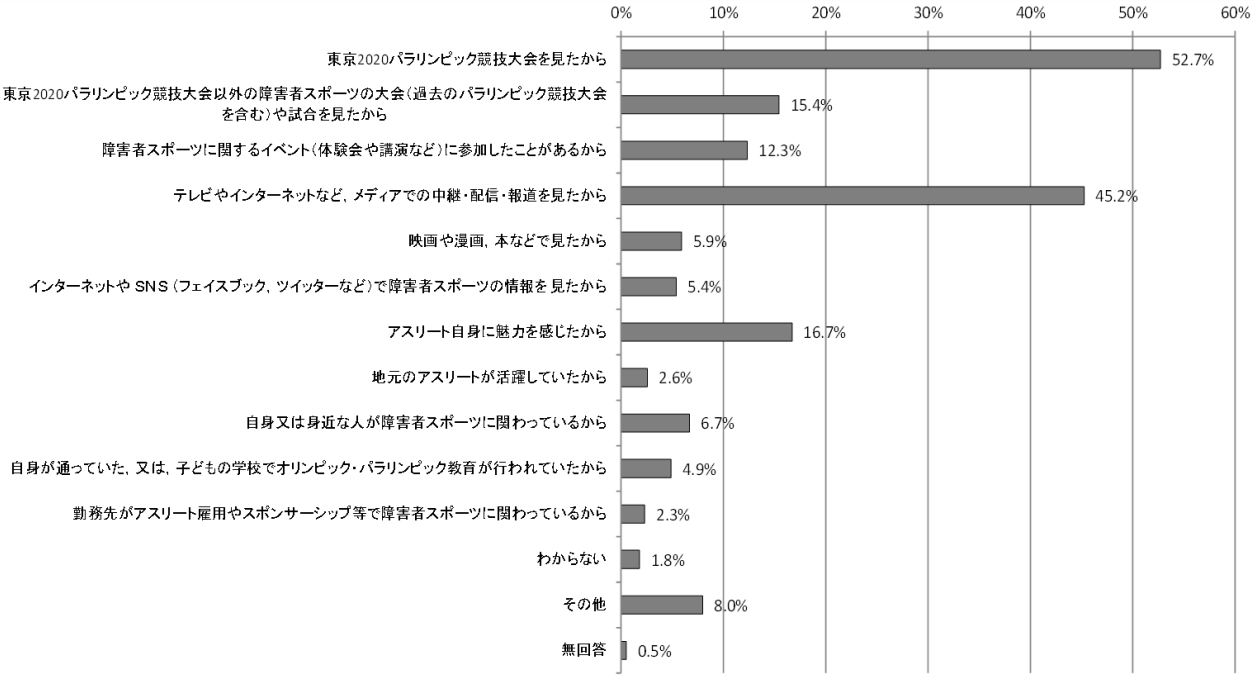

図表 29　障害者スポーツへの関わり(N=1178)




図表 30　障害者スポーツへの関心の有無(N=1178)

障害者スポーツに関心をもったきっかけは,「東京 2020 パラリンピック競技大会を見たから」が 52.7%,「テレビやインターネットなど, メディアでの中継・配信・報道をみたから」が 45.2%となっています。

障害者スポーツに関心がない理由は,「障害者スポーツを身近な場所でしていないから」が 24.6%,「身近に障害者スポーツに関わっている人がいないから」が 23.5%となっています。




図表 31　障害者スポーツへ関心を持ったきっかけ(N=389)

# 5　計画策定の視点

## （1）世界最大級のスポーツイベントの開催を契機としたスポーツ機運の高まりを生かしたスポーツ振興

ラグビーワールドカップ2019では，東京スタジアム（味の素スタジアム）で開会式，開幕戦を含む8試合が行われるとともに，調布駅前広場周辺ではファンゾーンが開催され，国内外から多くの方々が調布市を訪れました。これらのことは，多くの市民の記憶に刻まれ，スポーツに対する関心や期待感が高まり，翌年に予定されていた東京2020大会に向けた機運の醸成につながりました。

東京2020大会は，新型コロナウイルス感染拡大の影響により，史上初の1年延期となり，また緊急事態宣言が発出される中，市内の東京スタジアム（味の素スタジアム），武蔵野の森総合スポーツプラザをはじめ，多くの会場において無観客開催となるなど，これまでに経験のない困難な状況下での開催となりました。そうした中で，すべてのアスリートが自らの目標に向かって果敢に挑戦する姿は，全市民，とりわけ次代を担う子どもたちに大きな感動，そして夢と希望を与えてくれました。世界最大級のスポーツイベントを通して確認された「スポーツの価値」の重要性や，スポーツ機運の高まりを次代のまちづくりにつなげていく必要があります。

## （2）スポーツを通じた共生社会の充実

東京2020大会を契機とした「パラリンピックレガシー」の創出を目指し，共生社会の重要性を発信する取組として「パラハートちょうふ　つなげよう，ひろげよう，共に生きるまち」を市独自のキャッチフレーズとして掲げ，障害者スポーツの振興に向けた取組や，障害理解の促進に向けた取組などを展開しました。こうした取組を，次代のまちづくりに継承し，共生社会の更なる充実に向けて発展させていく必要があります。

## （3）トップスポーツチーム等多様な主体との連携

市は，これまでFC東京とのパートナーシップを育み，市民スポーツの振興をはじめ，まちづくりの様々な分野において，クラブと連携した取組を展開してきました。

また，東京2020大会の車いすバスケットボール競技の市内開催を契機として，日本車いすバスケットボール連盟との連携協定を締結したほか，ラグビーワールドカップ2019閉幕後においては，東芝ブレイブルーパス東京や東京サントリーサンゴリアス，調布市，府中市，三鷹市による5者連携協定を締結しました。両大会を契機として構築・発展した様々なパートナーシップについては，一過性のものとせず，大会のレガシーとして継承・発展させていく必要があります。

# 第３章　市の目指す姿

## 1　将来像

調布市基本計画に位置付けたスポーツ施策の方向性を踏まえ，以下の将来像の実現を目指すものとします。

# 生涯にわたって<br>誰もがスポーツに親しみ<br>生き生きと過ごせるまち

### ～スポーツを通じた共生社会の充実～

年齢や障害の有無等を問わず，広く市民がスポーツに親しみ，楽しめる環境を整備します。また，ラグビーワールドカップ 2019 及び東京 2020 大会のレガシーを継承・発展させ，スポーツを通して市民の交流が盛んになるまちを目指します。

この将来像（基本理念）を実現するために，「豊かな芸術文化・スポーツ活動を育むまちづくり宣言」[1]の理念に基づき，年齢や障害の有無にかかわらず，誰もがスポーツに親しむことができる機会を創出するとともに，市民ニーズを踏まえたスポーツ施設の利用環境の向上，安全で快適な市民のスポーツ環境の整備などを推進します。

とりわけ，東京 2020 大会を契機とした共生社会への理解・関心の高まりを捉え，誰もが「する」「みる」「ささえる」スポーツの価値を享受し，様々な立場・状況の人とともにスポーツを楽しめる環境を充実させることで，スポーツを通じた，共生社会の一層の充実を図ります。

豊かな芸術文化・スポーツ活動を育むまちづくり宣言

私たちのまち調布市は，世界的な音楽家や技術者を輩出する大学の立地，映画・映像を制作する企業や，国際的なスポーツ競技施設の集積などの特性を有し，誰もが，生涯を通じて，音楽・演劇をはじめ，映画・美術・伝統芸能・スポーツなど，さまざまな活動を楽しむことができます。

私たちは，この恵まれた環境を活かしながら，子どもから大人まで，女性も男性も，そして障害の有無にかかわらず，全ての市民が，それぞれに応じた活動を通して，豊かな芸術文化・スポーツ活動を育むまちづくりに取り組んでいくことをここに宣言します。

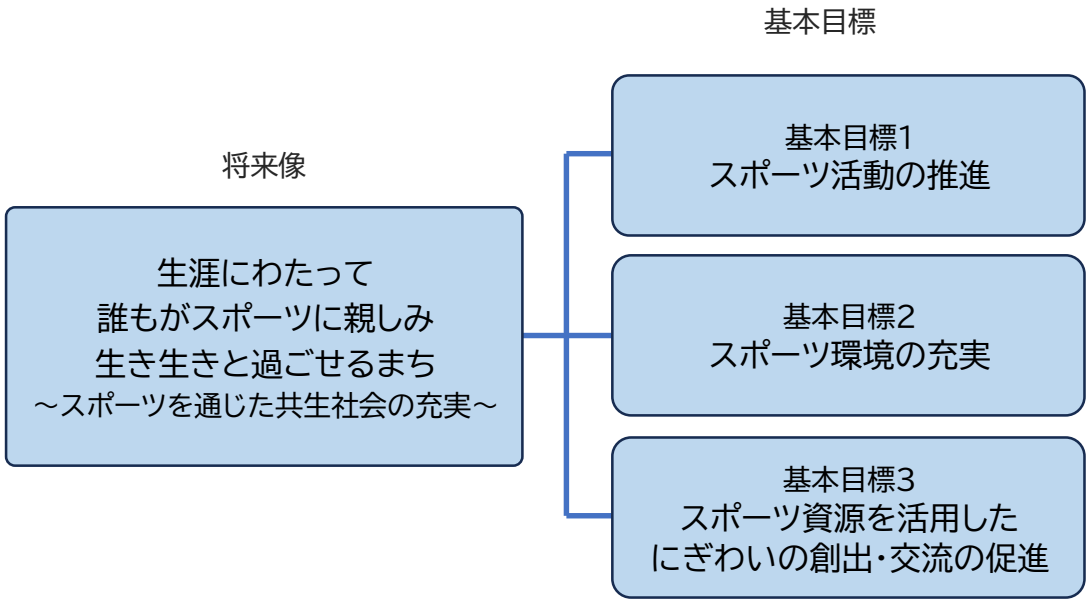
平成 27 年 11 月 8 日　調布市

[1] 平成２７（２０１５）年度の市制施行６０周年の際に行った子どもから大人まで誰もが文化芸術・スポーツ活動を育むことができる場・つながる機会をより一層創出・支援するまちづくりに取り組むための宣言。

## 2　基本目標

スポーツを楽しみ，喜びを得るという「スポーツそのものが有する価値」（Well-being）を基本としつつ，スポーツを通じた市民一人一人の健康・体力の維持増進や，人と人とのつながりの強化，地域経済の活性化など，「スポーツが社会活性化等に寄与する価値」といった側面も踏まえ，これらの『スポーツの力』を全ての市民が享受できるようスポーツ振興に取り組みます。

本計画では，将来像の実現に向け，以下の基本目標を掲げ，誰もがスポーツを楽しみ，喜びを実感しながら，「する」「みる」「ささえる」ことを実現できるよう，スポーツを「つくる／はぐくむ」等の国の掲げる新たな3つの視点を持ちつつ，環境や状況に応じてスポーツ施策を柔軟に見直し，改善を図りながら取組を推進します。



## 基本目標１　スポーツ活動の推進

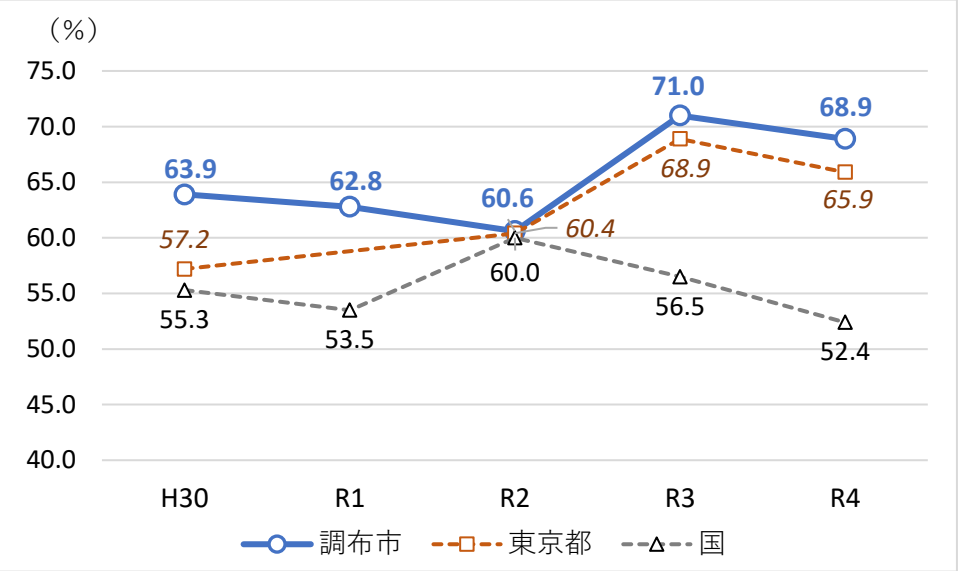
**【現状】**

週1回以上スポーツをする市民の割合(スポーツ実施率)の推移をみると，新型コロナウイルス感染拡大の影響により一時減少したものの，その後コロナ禍前よりも高い水準となっています。

スポーツを実施している人は，各年代ともウォーキングや散歩，体操などが多くなっていますが，若い世代では軽い水泳やランニング(ジョギング)が多くなっています。また若者や働く世代，子育て世代のスポーツ実施率に課題があることから，ライフスタイル等に応じた取組が必要です。

**【方向性】**

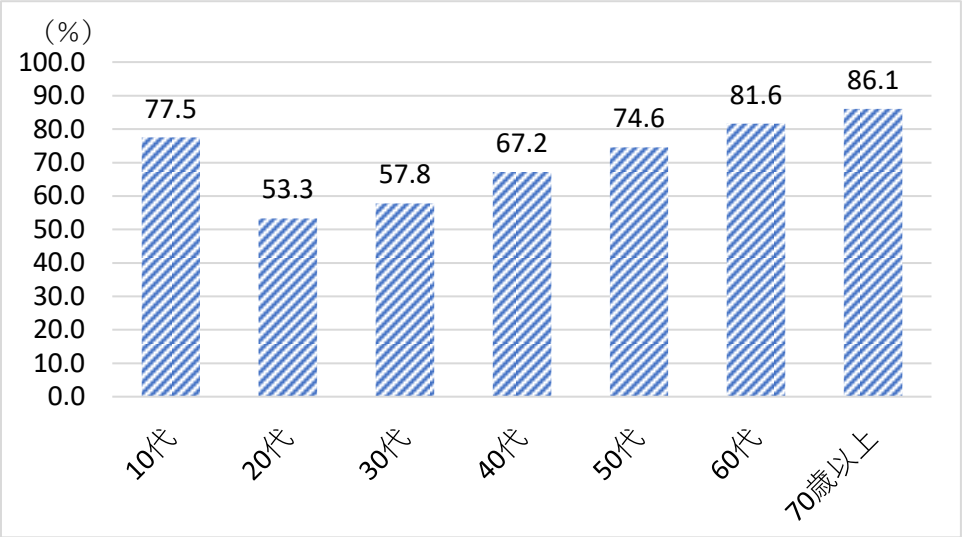
より多くの市民が生涯を通してスポーツに親しむことができるよう，それぞれの年齢や体力等に応じ，各世代のニーズに合わせたスポーツへの参加機会の充実を図り，年齢や性別，障害の有無にかかわらず，誰もがスポーツに親しむことができる取組を推進します。




図表 32　週１回以上スポーツをする人の割合の推移（国・都比較）

| % | 10代 (n=31) | 20代 (n=77) | 30代 (n=83) | 40代 (n=174) | 50代 (n=177) | 60代 (n=114) | 70歳以上 (n=137) |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ウオーキング，散歩 | 61.3 | 72.7 | 71.1 | 66.7 | 74.0 | 83.3 | 81.0 |
| 体操 | 45.2 | 40.3 | 49.4 | 45.4 | 54.2 | 56.1 | 54.0 |
| 軽い球技 | 58.1 | 40.3 | 16.9 | 20.7 | 14.7 | 15.8 | 14.6 |
| 軽い水泳 | 22.6 | 9.1 | 16.9 | 18.4 | 13.6 | 9.6 | 3.6 |
| ランニング(ジョギング) | 38.7 | 32.5 | 25.3 | 22.4 | 24.9 | 14.9 | 7.3 |
| 室内運動器具を使ってする運動 | 19.4 | 23.4 | 21.7 | 12.6 | 16.9 | 19.3 | 16.1 |
| ダンス | 22.6 | 7.8 | 7.2 | 2.3 | 4.5 | 3.5 | 6.6 |
| サイクリング，モータースポーツ | 12.9 | 15.6 | 10.8 | 20.1 | 16.9 | 13.2 | 10.2 |
| スキー，スノーボード | 12.9 | 20.8 | 6.0 | 8.0 | 6.8 | 5.3 | 0.0 |
| サッカー，フットサル | 25.8 | 6.5 | 3.6 | 6.9 | 3.4 | 0.9 | 0.7 |
| テニス，ソフトテニス | 22.6 | 7.8 | 6.0 | 1.7 | 4.0 | 7.9 | 8.0 |
| 卓球 | 22.6 | 5.2 | 3.6 | 0.6 | 2.8 | 2.6 | 1.5 |
| バレーボール | 22.6 | 6.5 | 3.6 | 0.6 | 1.7 | 0.0 | 0.7 |

図表 33　週１回以上スポーツをする人の割合の推移（種目別・年代別）




図表 34　（年代別）週 1 回以上スポーツを実施している人の割合（n=794）再掲

## 基本目標２　スポーツ環境の充実

**【現状】**

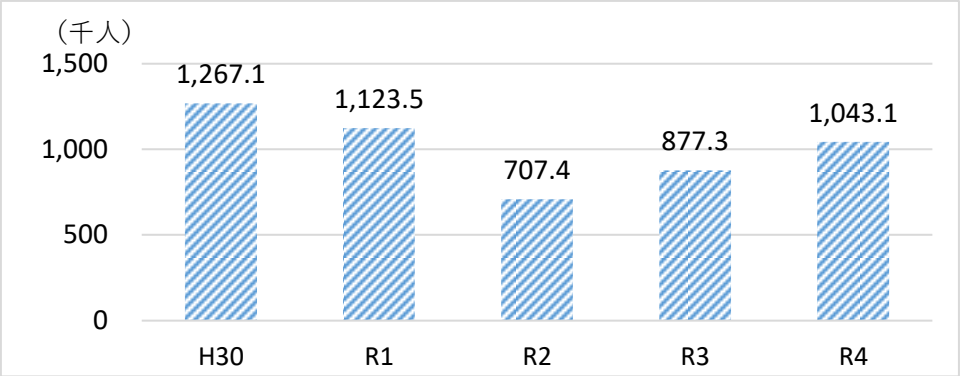
スポーツ活動の拠点となる市立スポーツ施設の利用者数について，平成30年度は120万人を超える状況でしたが，新型コロナウイルス感染症の影響により，令和2年度は約70万人に減少しました。その後，利用者数は徐々に回復しつつある状況にあります。

**【方向性】**

市民が安全で快適にスポーツ施設を利用できるよう，計画的な維持保全・改修を行うとともに，誰もがスポーツに取り組むための場の確保・充実や，部活動の地域連携・地域移行にも対応できるよう地域スポーツ指導者の育成・支援などにより，スポーツ環境の充実を図ります。

| % | 10代 (n=31) | 20代 (n=77) | 30代 (n=83) | 40代 (n=174) | 50代 (n=177) | 60代 (n=114) | 70歳以上 (n=137) |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 道路や遊歩道 | 45.2 | 51.9 | 50.6 | 59.2 | 59.3 | 60.5 | 44.5 |
| 自宅またはその周辺 | 54.8 | 54.5 | 51.8 | 59.8 | 59.3 | 55.3 | 46.7 |
| 広場や公園 | 38.7 | 29.9 | 34.9 | 25.3 | 19.2 | 20.2 | 19.0 |
| 民間のスポーツ施設 | 25.8 | 36.4 | 21.7 | 27.6 | 31.6 | 29.8 | 19.7 |
| 公共のスポーツ施設 | 25.8 | 23.4 | 27.7 | 22.4 | 24.3 | 19.3 | 28.5 |
| 公民館 | 3.2 | 0.0 | 2.4 | 1.1 | 0.6 | 0.9 | 2.9 |
| コミュニティ施設 | 0.0 | 6.5 | 4.8 | 2.9 | 3.4 | 3.5 | 6.6 |
| 学校（体育施設など） | 61.3 | 15.6 | 7.2 | 8.0 | 7.9 | 3.5 | 3.6 |
| 職場 | 0.0 | 5.2 | 9.6 | 5.7 | 1.7 | 3.5 | 0.0 |
| 社会福祉施設 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.6 | 0.0 | 0.0 | 3.6 |
| 自然豊かなところ | 12.9 | 33.8 | 30.1 | 32.8 | 29.9 | 25.4 | 16.1 |
| その他 | 0.0 | 1.3 | 3.6 | 3.4 | 3.4 | 0.9 | 4.4 |
| 無回答 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.6 | 0.9 | 2.9 |

図表 35　年代別スポーツ実施場所




図表 36　市立スポーツ施設利用者数の推移

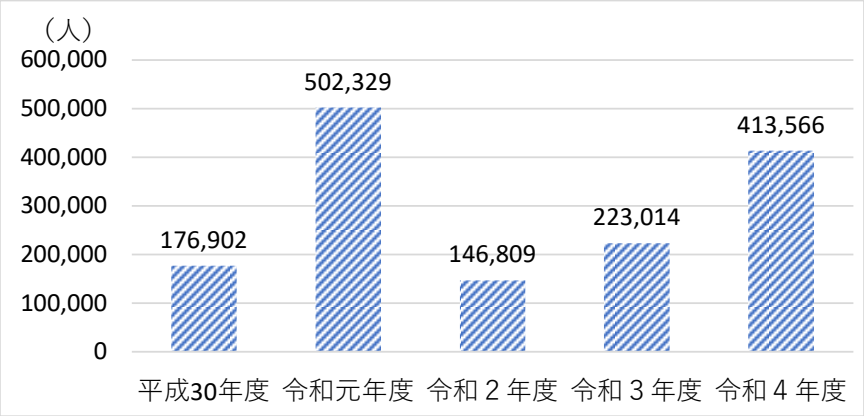
## 基本目標３　スポーツ資源を活用したにぎわいの創出・交流の促進

**【現状】**

味の素スタジアムや武蔵野の森総合スポーツプラザといった多摩地域の一大スポーツ拠点においては，サッカーＪ リーグやラグビーリーグワンをはじめ，大規模な国内･国際スポーツ大会や各種イベントが開催され，市内外から多くの人々が訪れており，スポーツによるにぎわいや交流が創出されています。新型コロナウイルス感染症の影響により，交流人口は一時減少しましたが，感染症の5類移行に伴う各種制限の撤廃等により徐々に回復し，現在は増加を続けています。

**【方向性】**

世界的なスポーツイベントの開催等を契機に，スポーツを活用した地域振興等への期待が高まっているなかで，トップスポーツチームや武蔵野の森オリンピック･パラリンピックパーク等の豊富なスポーツ資源を活かし，スポーツを核としたまちのにぎわい創出を図るとともに，スポーツを通して市民の交流を促進します。




図表 37　スポーツイベント等における交流人口の推移

# 3　成果指標・目標値

## （1）成果指標・目標値

本計画における目指す姿の達成度合いを図る成果指標として，以下の3つを定めます。

| 基本目標 | 成果指標 | 現状値(R4) | | 目標値(R12) |
|---|---|---|---|---|
| スポーツ活動の推進 | 週1回以上スポーツをする市民の割合 | 68.9% | ▶ | 70% |
| スポーツ環境の充実 | 市スポーツ施設利用者数（学校施設開放含む） | 104. 3万人 | ▶ | 130万人 |
| スポーツ資源を活用したにぎわいの創出・交流の促進 | スポーツイベント等における交流人口 | 41.4 万人 | ▶ | 50万人 |

図表 38　成果指標

## （2）成果指標の考え方

①週1回以上スポーツをする市民の割合

毎年実施している市民意識調査により，週１回以上スポーツを行う市民の割合を把握します。

②市スポーツ施設利用者数

市立スポーツ施設の利用者数（学校施設開放含む）を実績報告により集計します。

③スポーツイベント等における交流人口

味の素スタジアムや武蔵野の森総合スポーツプラザなどで実施されるスポーツ大会やイベントの来場者数，市が主催・共催もしくは協力するスポーツ大会やイベントへの参加者数，市と連携するトップスポーツチーム（FC 東京，東芝ブレイブルーパス東京，東京サントリーサンゴリアス）の味の素スタジアムにおける観戦者数等を集計します。

# 4　計画の全体像

3つの基本目標とそれに紐づく基本施策は，それぞれが完全に独立したものとして捉えるのでは なく，相互に密接に関係し合うため，関連する分野や施策が横断的に関わり合い，スポーツ推進に携わる各主体が連携・協働して取り組みます。

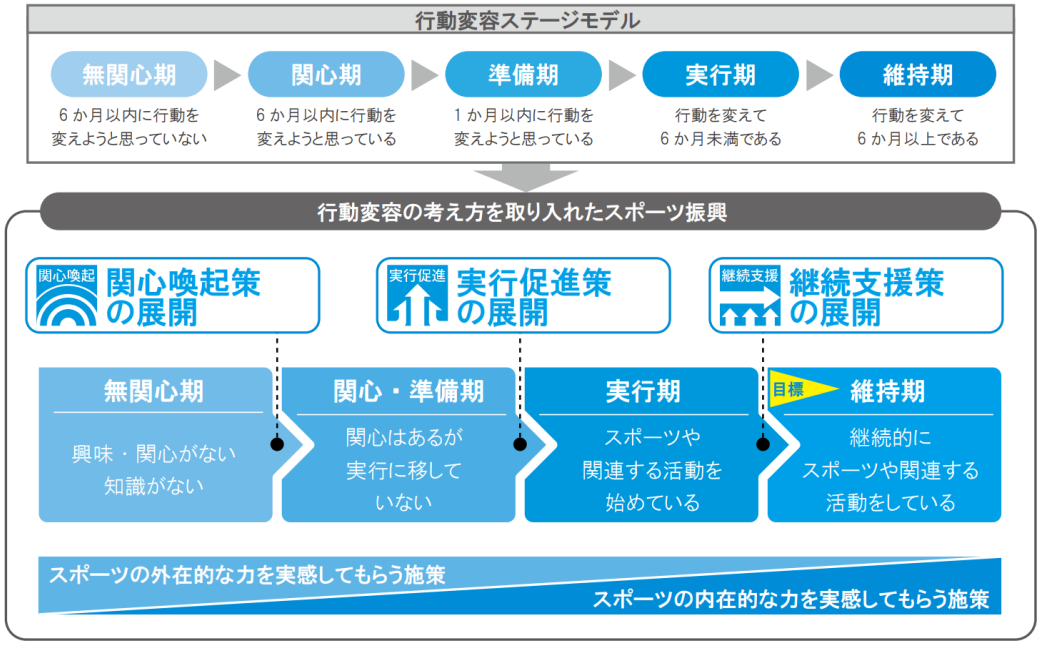
| 基本目標 | 基本施策 | 区分 | | | ステージ | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | する | みる | ささえる | 関心喚起 | 実行促進 | 継続支援 |
| スポーツ活動の推進 | スポーツをはじめる機会の創出 | ○ | | | ○ | ○ | |
| | 地域における子どものスポーツ機会の確保と体力向上 | ○ | | | ○ | ○ | ○ |
| | ライフステージに応じたスポーツ活動の推進 | ○ | | | | ○ | ○ |
| | 障害の有無に関わらないスポーツ振興 | ○ | | | ○ | ○ | ○ |
| | スポーツの支え手の育成・支援 | | | ○ | | ○ | ○ |
| スポーツ環境の充実 | スポーツ施設の整備 | ○ | | | | ○ | ○ |
| | スポーツ施設の効率的かつ効果的な維持管理・運営 | ○ | | | | ○ | ○ |
| | スポーツに取り組むための場の確保・充実 | ○ | | | | ○ | ○ |
| | 地域スポーツ指導者の育成・支援 | | | ○ | | ○ | ○ |
| | スポーツ・レクリエーションに関する情報発信の充実 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| スポーツ資源を活用したにぎわいの創出・交流の促進 | 地域ゆかりのアスリートの支援 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | トップスポーツチーム等との連携によるスポーツ振興等の推進 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | 多摩地域の一大スポーツ拠点を活用したスポーツ振興等の推進 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | 大規模スポーツイベントのレガシーの活用 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |

図表 39　施策体系

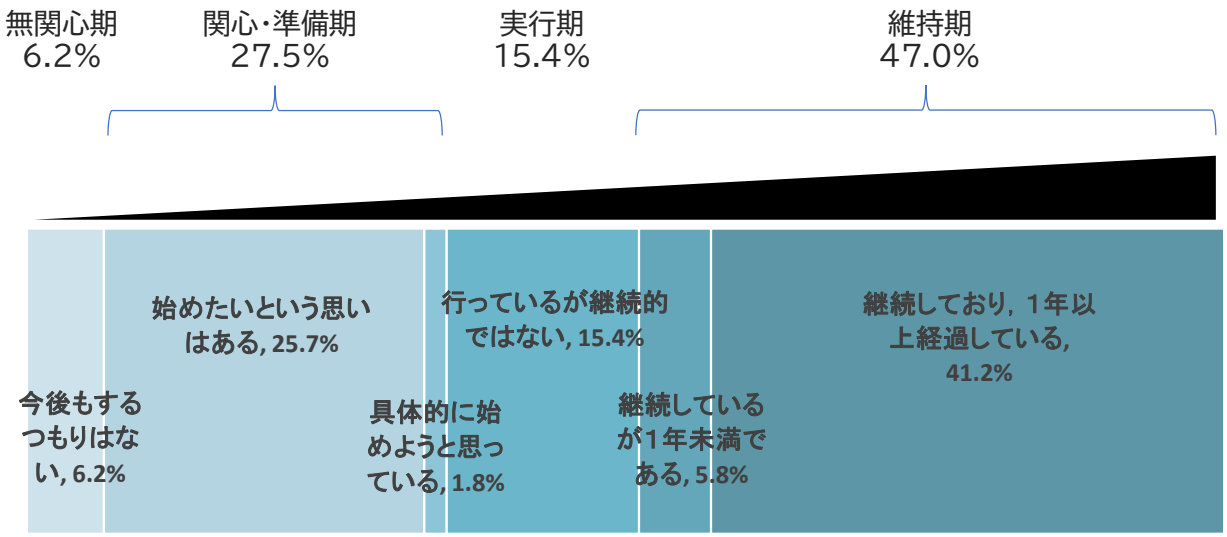
**＜行動変容ステージモデル＞**

行動変容ステージモデルとは，運動をはじめ様々な健康に関する行動を把握するためのフレームであり，人が行動を変えて新たな習慣が定着していく過程には，無関心期，関心期，準備期，実行期，維持期という5つのステージを経過していくという考え方であり，東京都スポーツ推進総合計画でも取り入れられています。

週1回以上スポーツをする市民の割合（スポーツ実施率）向上に向けた着眼点としては，関心・準備期層への実行促進策の展開がポイントとなります。また，スポーツ実施率を下支えするボリュームゾーンである維持期層の人々が今後も活動を続けていくための施策についても，継続的に展開していく必要があります。




図表 40　行動変容ステージモデル（東京都スポーツ推進総合計画）




出典：調布市市民スポーツ活動調査報告書（R４）

図表 41　スポーツに対する市民の意識・行動の分布

# 第４章　施策の展開

## 1　体系図

| 将来像 | 基本目標 |
|---|---|
| 生涯にわたって誰もがスポーツに親しみ生き生きと過ごせるまち<br>～スポーツを通じた共生社会の充実～ | **1　スポーツ活動の推進**<br>**成果指標：週１回以上スポーツをする市民の割合**<br>現状値（R4）　目標値（R12）<br>**68.9%　➡　70%** |
| | **2　スポーツ環境の充実**<br>**成果指標：市スポーツ施設利用者数（学校施設開放含む）**<br>現状値（R4）　目標値（R12）<br>**104.3 万人　➡　130 万人** |
| | **3　スポーツ資源を活用した<br>にぎわいの創出・交流の促進**<br>**成果指標：スポーツイベント等における交流人口**<br>現状値（R4）　目標値（R12）<br>**41.4 万人　➡　50 万人** |

| 基本施策 | 主な取組み |
|---|---|
| 1-1 スポーツをはじめる機会の創出 | ● 多様なスポーツイベントの開催<br>● トップスポーツチーム等と連携した学校訪問等の実施<br>● 健康の維持増進のための取組の実施 |
| 1-2 地域における子どものスポーツ機会の確保と体力向上 | ● 子どもの体力向上事業の実施<br>● 地域におけるスポーツ大会の実施 |
| 1-3 ライフステージに応じたスポーツ活動の推進 | ● 幅広い年代に向けた運動プログラムの実施<br>● シニアスポーツの振興<br>● ニュースポーツ等の普及・啓発 |
| 1-4 障害の有無に関わらないスポーツ振興 | ● 障害当事者の運動機会の創出・定着に向けた取組の実施<br>● パラスポーツの普及・啓発<br>● デフリンピックを契機とした取組の推進 |
| 1-4 スポーツの支え手の育成・支援 | ● 地域スポーツを支える団体等の育成・支援<br>● スポーツボランティアの育成と活動の促進 |
| 2-1 スポーツ施設の整備 | ● スポーツ施設の維持保全・計画的な改修 |
| 2-1 スポーツ施設の効率的かつ効果的な維持管理・運営 | ● 施設管理における効率的かつ効果的な維持管理・運営の検討<br>● スポーツ施設の再配置の検討 |
| 2-3 スポーツに取り組むための場の確保・充実 | ● スポーツ施設を活用した地域スポーツの場の確保と支援<br>● 東京都や民間のスポーツ施設, 学校施設等の活用 |
| 2-4 地域スポーツ指導者の育成・支援 | ● 指導者育成に向けた取組の充実<br>● スポーツ指導員派遣事業の充実<br>● 部活動地域連携・地域移行への対応 |
| 2-5 スポーツ・レクリエーションに関する情報発信の充実 | ● 市ホームページ等でのスポーツ・レクリエーション情報の充実<br>● SNS 等を活用した情報発信の充実<br>● スポーツや健康に関する普及啓発 |
| 3-1 地域ゆかりのアスリートの支援 | ● 調布市ゆかりのアスリートの応援<br>● 次代を担うスポーツ選手の発掘・支援 |
| 3-2 トップスポーツチーム等との連携によるスポーツ振興等の推進 | ● トップアスリートとの交流機会の創出<br>● トップスポーツの観戦・応援機会の創出<br>● トップスポーツチーム等とのパートナーシップの強化 |
| 3-3 多摩地域の一大スポーツ拠点を活用したスポーツ振興等の推進 | ● 大規模スポーツイベント等の開催支援<br>● 大規模スポーツイベント等と連携した地域振興の促進 |
| 3-4 大規模スポーツイベントのレガシーの活用 | ● 大規模スポーツイベントを契機とした多様な主体とのパートナーシップの活用・発展<br>● パラリンピックレガシーである「パラハートちょうふ」の取組推進<br>● 他分野間連携の推進 |

# 2　各施策

## 基本目標１　スポーツ活動の推進

### 基本施策１－１　スポーツをはじめる機会の創出

市民がスポーツをはじめる機会を創出していくため，誰もが参加可能なスポーツイベントを開催するほか，多様な主体の取組への支援を通じて，市民がライフスタイルに応じて気軽にスポーツができる機会を提供していきます。

また，トップスポーツチーム等と連携し，トップアスリートの学校訪問やスポーツイベントでの市民交流を通じて，スポーツをはじめるきっかけを提供します。

**取組**　**多様なスポーツイベントの開催**

市民駅伝競走大会

市民体育祭や市民スポーツまつり，市民駅伝競走大会，パラスポーツ体験，スポーツ施設でのスポーツ教室等，年齢や性別を問わず，誰もが気軽にスポーツやレクリエーションを楽しめる機会の充実を図ります。

また，総合体育館の指定管理者である調布市スポーツ協会や，大町スポーツ施設を拠点として活動する総合型地域スポーツクラブの調和 SHC 倶楽部が実施する様々なスポーツイベントや教室等について，実施主体との連携・支援を行うことで，市民のライフスタイルに応じて気軽にスポーツをはじめる機会の提供を行います。

**＜主な事業＞**

- 誰もが参加・体験できるスポーツイベントの開催（市民体育祭，市民スポーツまつり，市民駅伝競走大会など）
- 参加・体験型パラスポーツイベントの開催（パラスポーツ体験会，東京都市町村ボッチャ大会など）
- 市立スポーツ施設を活用したスポーツイベント等の展開

## 取組 トップスポーツチーム等と連携した学校訪問等の実施

トップスポーツチーム等との連携・協働による学校訪問や体験事業等の実施，またトップスポーツチームによる地域貢献活動を支援することで，子どもたちをはじめとした市民とトップアスリートとの交流を促進し，スポーツへの興味・関心を高め，スポーツに参加するきっかけづくりを行います。

ＦＣ東京による学校訪問

読売巨人軍による学校訪問

ＮＴＴ東日本バドミントン部
地域感謝祭

＜主な事業＞

- トップスポーツチーム等との連携による学校訪問等の実施
- トップスポーツチームによる地域貢献活動等への支援

## 取組 健康の維持増進のための取組の実施

市内各所で実施するリフレッシュ体操スクールなどにより，市民がライフステージに応じて身近な場所で気軽に体を動かす機会を提供します。また，健康に関する講座等の実施を通して，知識の獲得や意欲の向上を促し，市民の健康増進を支援します。

リフレッシュ体操スクール

＜主な事業＞

- リフレッシュ体操スクールの実施
- スポーツ協会セブンプログラムの実施
- 健康に関する講座（今から始める健康づくりシリーズ）等の実施

### コラム：CHOFU ドリームプロジェクト（調布市スポーツ協会事業）

CHOFUドリームプロジェクトは，様々な競技の誰もが知るプロフェッショナルをゲストに招き，競技への興味，関心を高め，スポーツに接する機会を創出することを目的として実施する教室型のプロジェクトです。

令和4年度は，元プロ野球選手の岩隈久志氏を招き，子ども野球教室を開催し，231人が参加しました。また，令和5年度は，水谷隼氏による卓球ショーやトップ選手による卓球教室を開催し，約100人が参加しました。

子ども野球教室

卓球教室

## 基本施策１－２　地域における子どものスポーツ機会の確保と体力向上

トップスポーツチームやアスリート等，様々な主体と連携し，スポーツへの関心喚起，運動するきっかけづくり，運動習慣の定着，体力や運動能力の向上に向けた取組等を実施することで，身近な地域で子どもがスポーツを楽しめる環境づくりを推進します。

### 取組　子どもの体力向上事業の実施

教育委員会や調布市スポーツ協会と連携し，子どもたちが運動，スポーツの多様な楽しみ方を実感できる取組や，運動習慣の定着化につながる取組を進めます。

トップスポーツチームやアスリート等と連携し，スポーツと楽しく触れ合う機会の創出に取り組みます。

また，ジュニア世代の育成事業を通して，子どものスポーツの普及・育成，競技力の向上を図ります。

ジュニア陸上体験教室

あおあかドリル

＜主な事業＞

- ゆめおり陸上クラブ出前授業
- ジュニア陸上体験教室
- トップスポーツチーム派遣事業
- あおあかドリルの配布
- FC 東京小学校サッカー教室
- ジュニア育成地域推進事業（調布市スポーツ協会事業）

## 取組 地域におけるスポーツ大会の実施

児童館や学童クラブ，健全育成など，様々な場所で地域のスポーツ大会を実施又は支援することで，学校の授業以外でも，身近な地域で子どもたちが体を動かし，スポーツを楽しめる環境づくりに取り組みます。

小学生ドッヂビー大会

健全育成ソフトボール大会

＜主な事業＞

- 小学生ドッヂビー大会の開催
- 児童館･学童クラブでのスポーツ大会の開催
- 健全育成ソフトボール大会の開催
- スポーツ協会加盟団体主催大会への支援

**コラム：調布市小学生タグラグビー大会（調布市民体育祭ラグビーフットボール競技）**

ラグビーワールドカップ 2019，東京 2020 大会の７人制ラグビーの開催に向け，青少年の健全育成を推進・ラグビー競技に対する地域社会の理解を醸成することを目的として，平成 28 年度から調布市小学生タグラグビー大会として実施してきました。令和４年度からは調布市民体育祭として，市内小学校から多くのチームが出場し，タグラグビーによる交流を図っています。令和５年度においては，市内小学校から２３チーム・約１８０人の児童が出場しました。

市民体育祭ラグビーフットボール競技（タグラグビーの部）

## 基本施策１－３　ライフステージに応じたスポーツ活動の推進

より多くの市民が生涯を通してスポーツに親しむことができるよう，それぞれの年齢や体力等，また各世代のニーズに合わせたスポーツへの参加機会の充実を図り，誰もがスポーツに親しめる機会の創出に取り組みます。

### 取組　幅広い年代に向けた運動プログラムの実施

子どもから高齢者まで，幅広い年代層を対象としたスポーツ教室やイベントなどの運動プログラムを展開し，市民が生涯を通じてスポーツに親しむ機会を提供するとともに，調布市スポーツ協会や総合型地域スポーツクラブの取組を支援します。

＜主な事業＞

- スポーツ協会セブンプログラムの実施
- リフレッシュ体操スクールの実施
- 誰もが参加･体験できるスポーツイベント･教室の開催

### 取組　シニアスポーツの振興

高齢者の健康維持･増進や地域での仲間づくりを支えていくため，高齢者がスポーツに親しみ，世代を越えてスポーツを楽しむ機会を提供します。

高齢者体験教室

＜主な事業＞

- 高齢者体操教室
- シニアスポーツ振興事業（調布市スポーツ協会事業）
- 総合型地域スポーツクラブにおけるシニアスポーツ振興事業の支援

### コラム：若者・働く世代・子育て世代のスポーツ参加

**若者・働く世代・子育て世代のスポーツ参加機会の充実に向けて**

スポーツ実施率が比較的低い若い年代層に向け，スポーツ活動に参加しやすい機会の充実を図ります。

**主な取組**

- SNS などでのスポーツ情報発信の充実によるスポーツへの関心喚起
- 親子参加型のスポーツの場の提供
- スポーツ大会の開催支援
- 気軽にできるウォーキング・ランニングなどの大会開催等の支援
- 調布市スポーツ協会や総合型地域スポーツクラブによる取組の支援
- 身近な場所でのスポーツ観戦機会の提供
- 若者へのボランティア機会の提供
- 全国大会や国際大会に出場する選手への支援
- 「調布市応援アスリート」制度による地域ゆかりのアスリートの応援

## 取組 ニュースポーツ等の普及・啓発

スポーツ経験や年齢，性別等に関わらず親しめるニュースポーツの普及･啓発に取り組むとともに，これらの取組を通じて，世代を超えた市民の交流を促進します。

また，東京 2020 大会を契機として注目されたアーバンスポーツに関する取組についても検討します。

ニュースポーツ交流会

**＜主な事業＞**

- ニュースポーツ交流会
- ニュースポーツ出前授業

### コラム：障害者スポーツの振興における協議体

「障害者スポーツの振興」という目的のもと，東京都との連携により，スポーツ・福祉・医療分野の関係団体による協議体を令和元年度に設置しました。「平日のスポーツ活動の充実」，「余暇のスポーツ活動の充実」，「協議体参加団体のための講習会」を３つの柱とし，各団体の現状や課題，障害者スポーツ振興のためにできること等を持ちより，連携の可能性を見出し，課題解決に向けた話し合いや障害当事者の運動機会創出・定着に向けた取組を行っています。

### コラム：アーバンスポーツ

「アーバンスポーツ」とは，ＢＭＸ，スケートボード，パルクール，インラインスケート，ブレイクダンス等の都市型スポーツのことを指します。

日本では広島県において，「FISE Hiroshima 2018」というアーバンスポーツの世界大会が 2018 年に開催されました。同大会の開催を機にアーバンスポーツ普及促進と東京２０２０大会の機運醸成という二つの目標を掲げた「一般社団法人 日本アーバンスポーツ支援協議会」が発足し，アーバンスポーツの価値向上，青少年の健全育成や国民の健康増進の取組が進められています。

## 基本施策１－４　障害の有無に関わらないスポーツ振興

障害の特性や障害当事者のニーズ等に対応し，障害のある方が身近な場所でスポーツに取り組める環境の充実を図ります。また，パラスポーツの体験や，小・中学校でのパラリンピック教育事業などを通して，パラスポーツの普及・啓発や障害理解の促進を図ります。

2025年には東京でデフリンピックが開催され，市内でもバドミントン競技が実施される予定であることから，大会を契機とした取組を推進します。

### 取組　障害当事者の運動機会の創出・定着に向けた取組の実施

スポーツ・福祉・医療分野などの関係者との連携を図り，障害の特性や障害当事者のニーズ等を踏まえて障害当事者の運動機会の創出・定着に取り組みます。

障害者余暇活動支援事業
（ほりで～ぷらん）

＜主な事業＞

- 「障害者スポーツの振興における協議体」を活用した取組の推進
- 障害者施設への指導者派遣事業
- 指定管理者における障害者の利用促進に向けた取組
- あおぞらサッカースクール
- 障害者余暇活動支援事業（ほりで～ぷらん）
- 「遊 ing」，「杉の木青年教室」など，障害のある方の社会体験活動への支援

### 取組　パラスポーツの普及・啓発

市民がパラスポーツを体験し，親しむ機会を拡充することで，パラスポーツの普及・啓発を図ります。また，子どもたちがパラスポーツに触れる機会を提供することで，障害理解の促進につなげ，共生社会の充実を図ります。

ボッチャ体験教室

車いすバスケットボール体験

＜主な事業＞

- パラスポーツ体験イベントの実施
- 子どもたちの障害理解促進に向けた取組の実施（ブラインドサッカー®体験型教育プログラム「スポ育®」，パラスポーツ体験プログラム「あすチャレ！」など）
- 東京都市町村ボッチャ大会の継続開催

## 取組 デフリンピックを契機とした取組の推進

2025年のデフリンピック東京開催を契機として，大会に向けた機運醸成はもとより，ユニバーサルコミュニケーションの促進や，互いの違いを認め合い，尊重し合う共生社会の充実に向けた取組を一層推進します。

**＜主な事業＞**

- 大会に向けた機運醸成（デフスポーツ体験，デフリンピアンとの交流など）
- 障害理解の促進（手話の啓発など）
- 東京都等と連携した円滑な大会開催のための支援

**コラム：デフリンピックとは**

国際ろう者スポーツ委員会（ICSD）が主催するろう者による国際スポーツ大会。オリンピックと同じように，４年に１度，夏季大会と冬季大会がそれぞれ開かれる。（デフ(Deaf)は英語で「耳がきこえない」という意味）

1924 年に第１回大会がパリで開催された。東京 2025 デフリンピック（略称，正式名称は「第 25 回夏季デフリンピック競技大会 東京 2025」）は 100 周年の記念すべき大会であり，日本では初開催となる。

＜東京 2025 デフリンピックの概要＞

日程：2025 年 11 月 15 日～26 日（9 日間）

競技：21 競技（陸上，バドミントン，バスケットボールなど）

会場：都内 16 会場（サッカーは福島県，自転車は静岡県）

調布市では武蔵野の森総合スポーツプラザにてバドミントン競技が開催予定

出場選手：70～80 か国・地域，約 3,000 人

## 基本施策１－５　スポーツの支え手の育成・支援

地域スポーツの支え手であるスポーツ団体等の事業や組織力の強化を支援するとともに，相互の連携を図り，市民の健康増進及び体力向上等を目的とした市民スポーツの振興を図ります。

また，スポーツを「支える」担い手であるスポーツボランティアの育成を図るとともに，活動の場の拡充を図ることで，ボランティア活動を促進します。

| | | |
|---|---|---|
| 調布市スポーツ協会加盟団体 | スポーツ協会加盟団体（競技連盟・協会など） | 33 団体 |
| | 総会員数 | 9,900 人 |
| | 協会・連盟に所属する団体数（チームなど） | 438 団体 |
| 調布市スポーツ少年団 | 団体数 | 4 団体 |
| | 総会員数 | 122 人 |

**図表 42　調布市スポーツ協会加盟団体・調布市スポーツ少年団（令和 5 年 8 月 31 日現在）**

### 取組　地域スポーツを支える団体等の育成・支援

地域スポーツの担い手である調布市スポーツ推進委員会や調布市スポーツ協会，総合型地域スポーツクラブの事業や組織力の強化を支援します。調布市スポーツ協会への支援を通して，協会に加盟するスポーツ団体を育成し，地域スポーツの裾野の拡大を図ります。

また，大会で優秀な成績を残したアスリートの顕彰だけでなく，スポーツ振興を支援している市民や団体の活動も称えていきます。

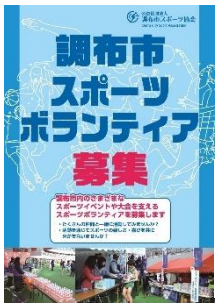
**＜主な事業＞**

- 調布市スポーツ協会への支援（加盟団体，スポーツ団体への支援含む）
- 調布市スポーツ推進委員会への支援
- 総合型地域スポーツクラブへの支援
- スポーツを支える市民・団体の顕彰等

## 取組 スポーツボランティアの育成と活動の促進

市民スポーツまつりや市民駅伝競走大会の運営など，市のスポーツイベントは，多くのスポーツボランティアの支えにより成り立っています。

調布市スポーツ協会と連携し，スポーツボランティアの人材育成やスポーツイベント等の運営を支える機会の創出に取り組むことでボランティア活動を促進し，市民のスポーツボランティアへの参加意欲を高めます。



スポーツボランティア募集チラシ

＜主な事業＞

- スポーツボランティアの育成
- スポーツボランティアの活動促進

### コラム：調和 SHC 倶楽部

調和 SHC 倶楽部とは，調布市立調和小学校地区とその周辺の地域の方々を対象とした市内初の「地域総合型スポーツ・文化クラブ」です。平成 14 年 9 月に設立され，平成 15 年 11 月には東京都より「特定非営利活動法人（NPO）」の認証を取得しました。SHC の S は「Sports（スポーツ）」，H は「Health（健康）」，C は「Culture（文化）」の頭文字。現在は 1,000 人を超える会員が在籍し，子どもからお年寄りまで，みんなの笑顔が広がる魅力あるクラブを目指して日々活動しています。

老若男女誰でも参加できるサークル・教室が，数多く用意されているのがクラブの特徴であり，中でも高齢者に対応できるプログラムに力を入れていて，多くの会員が参加しています。

令和５年１１月２６日　パラスポーツ・ボッチャ調布市交流会

# 基本目標２　スポーツ環境の充実

## 基本施策２－１　スポーツ施設の整備

スポーツ施設をより効率的かつ効果的に維持管理・運営していくために，調布市公共施設マネジメント計画や各施設の利用実態，老朽化の状況などを踏まえ，維持保全や改修工事を計画的に実施するとともに，市民ニーズを踏まえた安全で利便性の高いスポーツ施設の整備に努めます。

### 取組　スポーツ施設の維持保全・計画的な改修

利用者の安全・安心を第一に，スポーツ施設の状況や利用者ニーズなどを踏まえながら，順次整備を行いつつ，調布市公共施設マネジメント計画に基づき，計画的に維持保全や改修工事を進めることにより，安全で利便性の高いスポーツ施設の整備を図ります。

＜主な事業＞

- スポーツ施設の維持保全・改修
- スポーツ施設の利便性向上に向けた取組
- スポーツ施設における環境負荷低減に向けた取組

**コラム：グリーンダスト舗装**

グリーンダスト舗装とは，輝緑安山岩などを破砕したグリーンダストを使った土系舗装です。透水性が高くグラウンドの水はけが良くなるため，降雨による影響を受けにくくなります。また，乾燥した場合においても，グラウンドの埃が立ちにくいといった効果があります。市では，調布基地跡地運動広場の一部グラウンドに導入し，利用環境の向上を図っています。

グリーンダスト舗装をしたグラウンド（調布基地跡地運動広場）

**コラム：ゼロカーボンシティに向けて**

地球規模で発生している熱波や集中豪雨など，これまで経験したことのない自然災害や異常気象が深刻化する中，気候変動への対策は喫緊の課題です。

令和３年４月，市と市議会は，脱炭素社会の実現に向けて「2050 年までに二酸化炭素排出実質ゼロ」にする「ゼロカーボンシティ宣言」を目指すことを宣言しました。持続可能性をテーマにカーボンマイナス大会を実現した東京 2020 大会を契機として，市は，市民や事業者と協働して市域全体で地球温暖化対策の取組を推進することにより，「2050 年ゼロカーボンシティ」に向けた取組を進めています。

スポーツ施設においても，照明の LED 化を図るなど，環境負荷の低減に向けた取組を推進していきます。

**コラム：スポーツ施設における暑熱対策**

近年の猛暑傾向を踏まえ，スポーツ施設においては，デジタル温度計による注意喚起はもとより，特に夏場の利用環境を向上する観点から，屋内施設への空調設備の設置や，屋外の一部グラウンドや市民野球場へのミストシャワーの設置等により，暑熱対策を図っています。

スポーツ施設におけるミストシャワーの設置
（左：市民野球場，右：調布基地跡地運動広場）

**スポーツ施設における安全・安心の確保に向けた取組（AED の設置）**

安心してスポーツ活動を行うための環境を整備し，スポーツによって生じる事故・外傷・障害等の防止や軽減を図ることが必要です。市は，スポーツ施設で不測の事態が生じた際に，速やかに対応できるよう，各市立スポーツ施設へ AED（自動体外式除細動器）を設置しています。なお，AED 設置場所は市ホームページでお知らせしているほか，利用者に分かりやすいよう，現地にはのぼり旗を設置しています。

※カッコ内は AED 設置場所

- 総合体育館(地下１階･プール受付)
- 市民西調布体育館(ロビー)
- 市民西町野球場･市民西町少年野球場･市民西町サッカー場
  （西町少年野球場管理事務所･西町サッカー場内倉庫）
- 市民野球場･市民プール･市民多摩川･テニスコート
  （市民プール１階事務所･テニスコートクラブハウス）
- 市民深大寺テニスコート(管理事務所)
- 市民緑ケ丘テニスコート(クラブハウスロビー)
- 市民大町スポーツ施設(管理棟受付･体育館)
- 調布基地跡地運動広場
  （管理棟事務所前･E2 バックスクリーン後ろ･E5･E6 間簡易トイレ横）
- 多摩川児童公園内運動施設(管理事務所･少年野球場 2･3 面の間(日中のみ))

AED のぼりイメージ

## 基本施策２－２　スポーツ施設の効率的かつ効果的な維持管理・運営

多様化するスポーツ活動に対するニーズや各スポーツ施設を取り巻く課題を踏まえ，施設管理におけるより効率的かつ効果的な維持管理・運営の検討に取り組みます。あわせて，中央自動車道の耐震補強工事等に伴う西調布体育館の代替機能の検討・確保や市民プールの在り方検討など，スポーツ施設の再配置の検討に取り組みます。

### 取組　施設管理における効率的かつ効果的な維持管理・運営の検討

行政のデジタル化の潮流を踏まえながら，スポーツ施設の利便性向上に向け，キャッシュレス決済の導入や施設利用予約システム更新を含む利用環境向上の取組を検討します。あわせて，市民にとってより身近で利用しやすい施設となるよう，SNS 等を活用した情報発信に取り組みます。

＜主な事業＞

- デジタル技術の活用等によるスポーツ施設の利便性向上の検討

### 取組　スポーツ施設の再配置の検討

中日本高速道路株式会社による中央自動車道の耐震補強工事等に伴い，高架下に設置している公共施設について，一時的な撤去や閉鎖などの影響を受けることとなり，移転等の取組が必要になっています。スポーツ施設としては，中央自動車道高架下に位置する西調布体育館について，周辺の公共施設用地を活用した代替施設の建設による機能移転等を視野に，今後に向けた検討を行ってきました。引き続き，中央自動車道の耐震補強工事等に伴う影響を把握する中で，その対応方法を含めて，利用団体や地域の皆様に適時適切な情報提供を行いつつ，西調布体育館の移転・更新に向けて，利用団体の皆様のスポーツ活動が継続できるよう計画的に取り組みます。

また，設置から50年以上が経過している市民プールについては，施設・設備の老朽化や運営上の課題を踏まえ，今後の対応について多角的に検討します。

＜主な事業＞

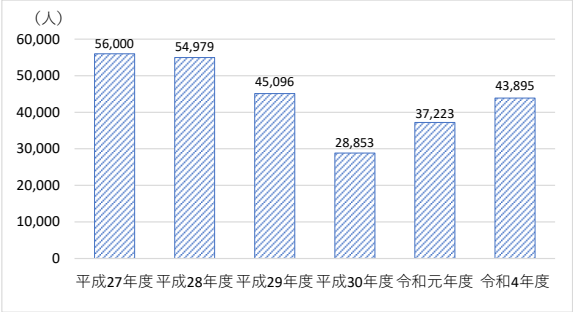
- 西調布体育館の代替機能の検討・確保
- 市民プールの今後の対応の検討

## 調布市民西調布体育館の概要

西調布体育館は，高速道路高架下にある屋内スポーツ施設です。体育室が２室，ミーティングルームが１室あり，様々な種目で利用できますが，特に剣道・柔道・空手道・合気道・なぎなたといった武道系の競技を中心に利用されています。

〇概要

所 在 地：東京都調布市上石原２丁目４番地１
設置年月：昭和５９年３月
アクセス：京王線西調布駅から南西へ徒歩約 10 分
利用種目：卓球，柔道，剣道，合気道，なぎなた，ダンス・体操等の練習・試合等(団体使用に限る)で使用可
※バスケットボール，バレーボール，バドミントン等は使用不可



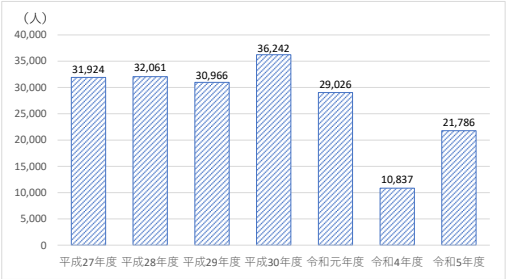

西調布体育館の利用者数の推移

## 調布市民プールの概要

市民プールは，屋外プール施設として，夏季の開催期間中は大変多くの利用者でにぎわっています。一方，設置後５０年以上が経過し，施設・設備の老朽化が課題となっているほか，近年では猛暑の中，運営上の課題が生じています。

〇概要

所 在 地：東京都調布市染地２丁目 43 番地１
設置年月：昭和４６年３月
開設期間：毎年 7/10～9/10　午前９時～午後６時 30 分
アクセス：バス　調布駅南口広場発多摩川住宅西行きバス　市民プール下車
徒歩　京王多摩川駅より東へ徒歩 15 分
徒歩　調布駅または布田駅から南へ徒歩 20 分




市民プールの利用者数の推移

## 基本施策２－３　スポーツに取り組むための場の確保・充実

市民が身近な場でスポーツに取り組めるよう，総合体育館をはじめとした市立スポーツ施設で実施されるスポーツ教室等のプログラムを支援します。

また，学校施設の活用をはじめ，東京都や民間企業との連携，市内大学施設の活用を進め，スポーツができる場の確保・充実を図ります。

### 取組　スポーツ施設を活用した地域スポーツの場の確保と支援

総合体育館の指定管理者である調布市スポーツ協会や，大町スポーツ施設を拠点として活動する総合型地域スポーツクラブの調和 SHC 倶楽部が実施する様々なスポーツ振興のためのイベントやスポーツ教室等について，実施主体と連携を図り，イベント等への支援を行うことで，市民のライフスタイルに応じて気軽にスポーツをはじめる機会を提供します。

＜主な事業＞

- 市立スポーツ施設を活用したスポーツイベント等への支援

### 取組　東京都や民間のスポーツ施設，学校施設等の活用

市内にある味の素スタジアムや武蔵野の森総合スポーツプラザといった都立施設について，東京都や指定管理者と連携し，スポーツイベントの実施などを通じた市民利用を促進します。また，民間事業者や大学と連携し，市民がスポーツ活動できる場の確保に努めます。

あわせて，調布中学校の弓道場やテニスコート，調和小学校の屋内プールを学校教育活動使用時以外に市民開放するほか，社会教育及び社会体育の振興，普及を進めながら健康の増進を図ることを目的に学校施設の開放を行います。

＜主な事業＞

- 都立スポーツ施設の活用
- 民間・大学スポーツ施設の活用（ミズノフットサルプラザ，電気通信大学など）
- 学校開放事業の実施

**コラム：スポーツ協会セブンプログラム**

調布市スポーツ協会では，市民スポーツの振興に向け，７つのプログラムを柱とした「スポーツ協会セブンプログラム」を展開し，指定管理する総合体育館において，市民が身近な場所でスポーツに取り組める場の提供・充実を図っています。

【プログラムの内容】

1　健康増進プログラム

運動する機会がない方を対象に，無理なく日常的に参加できるプログラム（バランスボールエクササイズ，ナイトヨガスクール，ヘルシーウォーキング等）

ジュニアスポーツプログラム

2　ジュニアスポーツプログラム

気軽にスポーツに参加できる機会の提供，自分に合ったスポーツの発見，きっかけづくりとして，体力向上・心身の発達を促し，スポーツへの関心・興味を高めるプログラム（Kids チャレンジ体操スクール，跳び箱・鉄棒チャレンジスクール，ジュニア卓球スクール等）

スキルアッププログラム

3　スキルアッププログラム

基礎体力から継続的な運動効果による体力の維持管理，技術向上を目的に取り組むプログラム。また，各競技会の実施によりスポーツ水準の向上を図り，スポーツの普及と選手の発掘及び育成を推進している。（バレーボールスクール，バドミントンスクール，卓球スクール，スイミングスクール等）

障害者プログラム

4　障害者プログラム

障害者が定期的に個人利用できるよう，障害の状況に応じた内容や用具等を工夫するなど，施設のバリアフリー整備及びスタッフの心のバリアフリーを進め，身近な地域でスポーツに親しめる環境づくりを実施（転倒予防のための体操，市内障害者グループへの施設貸出等）

5　指導者養成プログラム

様々なニーズや能力に応じたスポーツライフの充実を図るため，資質や能力の高い指導者の育成を行う。市民一人ひとりのニーズに的確に応えることができる指導力を備えたスポーツ指導者の養成事業を実施（公認指導者更新講習会，普通・上級救命講習会，熱中症予防講習会等）

6　インフォメーションプログラム

総合体育館新着情報，スポーツ協会事業案内，関係団体の事業案内，情報誌発行，サークル会員募集など，あらゆる情報を定期的に発信（ホームページ，フェイスブック，案内チラシ，メールマガジン，ふれあい連絡カード等）

7　地域コミュニティプログラム

地域におけるスポーツ振興，コミュニティの拠点となるよう事業連携や防犯対策，災害時の連携を図る。また，周辺の環境保全活動として，定期的な地域清掃の実施，社会貢献活動として各種募金などを実施（自衛消防訓練，選挙対応等）

## 基本施策２－４　地域スポーツ指導者の育成・支援

地域スポーツ指導者のスポーツ指導に関する基礎的な知識・技能の習得を支援するとともに，体罰や暴力，その他不適切指導の根絶に向けた研修などを実施することで，スポーツ・インテグリティの確保に取り組みます。

また，地域スポーツの中核的役割を担うスポーツ推進委員の資質向上を図るため，各種研修の受講等，活動の活性化に向けて取り組みます。

学校部活動の地域連携・地域移行に関しては，関係部署等による協議会等を通じて課題を整理し，地域の実情に応じた対応を図ります。

### 取組　指導者育成に向けた取組の充実

スポーツ医科学等の知識習得への支援や，指導者による暴力・暴言・ハラスメントを無くすためのスポーツ・インテグリティ研修の受講促進など，地域スポーツ指導者の育成に向けて取り組みます。

また，地域におけるスポーツ推進の中核的な役割を担うスポーツ推進委員の資質向上を図るとともに，スポーツ推進委員会との連携・協働の促進や，東京都スポーツ推進委員会の講習会の受講等，活動の活性化に向けた取組を支援します。

指導者養成講習会

スポーツ医科学サポート

スポーツ推進委員研修

＜主な事業＞

- スポーツ医科学サポート
- 指導者養成プログラム
- FC 東京指導者講習会
- スポーツ推進委員会への支援

### 取組　スポーツ指導員派遣事業の充実

スポーツ指導員バンク（指導員の登録，派遣及び紹介）事業などを通して，地域スポーツを支える指導者の活動の機会を創出します。

＜主な事業＞

- スポーツ指導員派遣事業（スポーツ指導者バンク，指導員の派遣・紹介）

## 取組 部活動地域連携・地域移行への対応

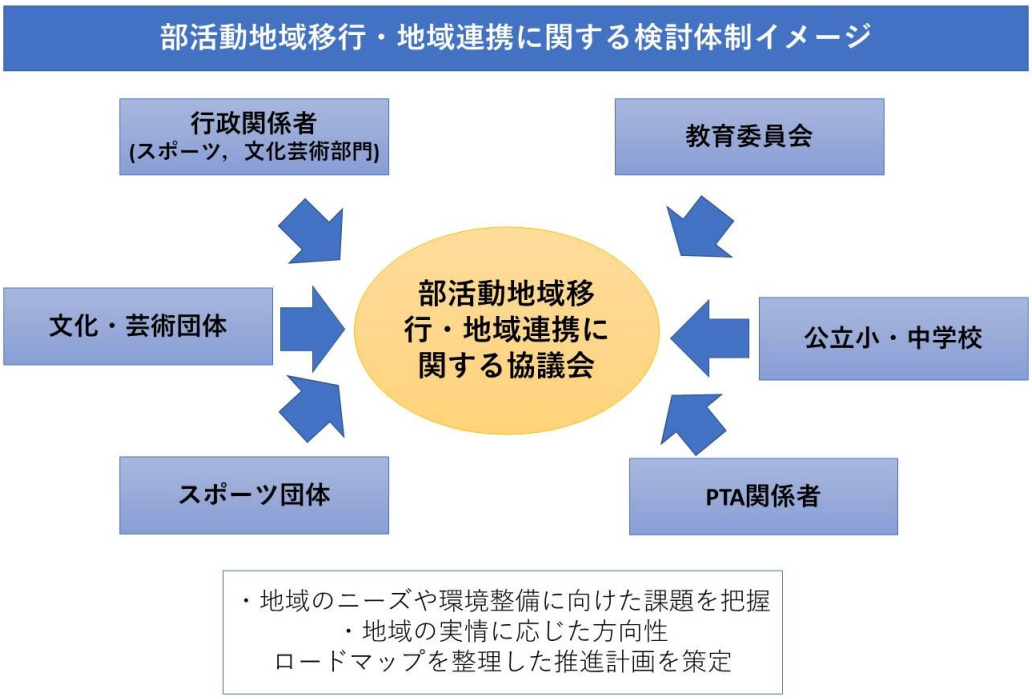
全国的な少子化を踏まえた部活動の持続可能性の確保のため，スポーツ庁の「運動部活動の地域移行に関する検討会議」において，指導者や活動場所を含めて現在の学校単位の活動から地域単位の活動に移行する提言がなされました。この提言を受けた国のガイドラインなどを踏まえ，教育委員会と連携しながら，子どもたちにとって望ましいスポーツ環境の構築を進めます。

＜主な事業＞

- 学校部活動の地域連携・地域移行に関する協議会（仮）における検討

### コラム：部活動地域連携・移行への対応

「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン（スポ庁，文化庁）」や，「学校部活動の地域連携・地域移行に関する推進計画（東京都）」を踏まえ，部活動地域連携・地域移行に関する課題の整理，方針等の検討を行うための協議会の立ち上げが求められています。協議会の中では，地域のニーズや環境整備に向けた課題を把握し，地域の実情に応じた方向性やロードマップを整理した推進計画の策定が必要です。こうした状況において，市は，教育委員会と協議しながら，検討体制を構築し，具体的な取組を進めます。



## 基本施策２－５　スポーツ・レクリエーションに関する情報発信の充実

より多くの市民がスポーツ･レクリエーションに関心を持ち，その活動に主体的に参加できるよう，スポーツ･レクリエーション情報の充実を図り，市ホームページや SNS 等を活用してスポーツに関する情報を分かりやすく魅力的に発信します。

### 取組　市ホームページ等でのスポーツ・レクリエーション情報の充実

より多くの市民がスポーツ･レクリエーションに関心を持ち，その活動に主体的に参加できるよう，市ホームページ等でのスポーツ･レクリエーション情報の充実を図ります。また，情報格差（デジタル･ディバイド）が極力生じることのないよう多様な媒体･手段を用いてスポーツに関する情報発信を行います。

調布市スポーツ協会が発行するスポーツ情報誌

＜主な事業＞

- スポーツ･レクリエーション情報の充実
- 指定管理者におけるスポーツ情報の発信

### 取組　SNS 等を活用した情報発信の充実

調布市スポーツインフォメーション【公式】（X アカウント）をはじめ，市公式ホームページや LINE 等の多様な手法により，イベント情報や地域スポーツ団体の活動，トップスポーツチームに関する情報発信など，より多くの市民がスポーツ･レクリエーション情報を入手できるよう，分かりやすく魅力的な情報発信を行います。

調布市スポーツインフォメーション【公式】X アカウント

＜主な事業＞

- SNS 等を活用した情報発信の充実
  （調布市スポーツインフォメーション【公式】（X アカウント）を活用した情報発信など）

## 取組 スポーツや健康に関する普及啓発

心身の健康の維持・増進や体力の向上を図り，健康で活力に満ちた長寿社会の実現につなげるため，スポーツを通じた健康づくりについて普及啓発を行います。また，健康への無関心層や運動することに積極的ではない人が身体を動かす習慣を身につけ，ウォーキングなどの気軽に取り組めるスポーツをはじめるきっかけづくりやスポーツに取り組むことができる場や機会の提供，ライフステージや世代に合わせた普及啓発に取り組みます。

＜主な事業＞

- 健康に関する講座の実施
- ウォーキングの推進（ウォーキングマップの啓発）

# 基本目標３　スポーツ資源を活用したにぎわいの創出・交流の促進

## 基本施策３－１　地域ゆかりのアスリートの支援

市にゆかりのあるアスリートが，”地域から応援されること”を後押しするとともに，市民が一体となって応援し，交流を図ることで，アスリートへの応援機運を醸成し，市民のスポーツへの参加を促進します。

また，ジュニアアスリートへの支援などを通じて，次代を担うスポーツ選手の発掘・支援に取り組みます。

### 取組　調布市ゆかりのアスリートの応援

市にゆかりのあるアスリートを「調布市応援アスリート」として認定し，市をあげて応援することで，アスリートのさらなる飛躍を期待し，市民が一体となって応援する機運を醸成します。また，世界を舞台に活躍したアスリートへは，アスリートへの表彰制度を通してその栄誉を称え，更なる活躍を後押しします。

特集動画の制作・YouTube での公開
（スポーツクライミング青柳未愛選手）

＜主な事業＞

- 調布市応援アスリート事業
- アスリートへの表彰制度（市民スポーツ栄誉賞，市政功労賞）

### コラム：調布市応援アスリート事業とは

調布市にゆかりのあるアスリートを「調布市応援アスリート」として認定し，市をあげて応援することにより，“地域から応援されること”を後押し，アスリートのさらなる飛躍を期待するものです。また，市民が一体となって応援し，交流を図ることで，市民のスポーツへの関心や活動意欲を高め，スポーツ振興へと繋げることを目的としています。

主な取組としては，市報や市ホームページ，公式 SNS を活用した，応援アスリートの紹介，大会出場情報の発信，大会結果やインタビュー等の掲載や，市が実施するイベントや講演会などに講師やゲストとしてご招待しています。

W 杯出場時の応援横断幕
（サッカー相馬勇紀選手）

## 取組 次代を担うスポーツ選手の発掘・支援

市内で活動し，かつ全国大会等に出場するスポーツクラブ又は個人の活動に対し，報奨金を交付することで，次代を担うスポーツ選手の発掘・支援に取り組みます。また，調布市スポーツ協会と連携し，加盟団体のジュニアアスリートを対象とした支援を通して，競技力の向上と高い競技水準の維持・定着を目指します。

＜主な事業＞

- 国際・全国スポーツ大会出場報奨金事業
- ジュニア育成地域推進事業（調布市スポーツ協会事業）

| No. | 氏名 | 競技 | 認定日 |
|---|---|---|---|
| 1 | 山崎　悠麻 | パラバドミントン | 2017年 11月 29日 |
| 2 | 森薗　政崇 | 卓球 | 2018年　5月 16日 |
| 3 | 平川　　怜 | サッカー | 2018年　7月 24日 |
| 4 | 桃田　賢斗 | バドミントン | 2018年 12月 20日 |
| 5 | 有安　諒平 | パラローイング，クロスカントリースキー | 2019年　7月 24日 |
| 6 | 松田　天空 | パラ水泳 | 2019年　8月 13日 |
| 7 | 相馬　勇紀 | サッカー | 2021年　6月　3日 |
| 8 | 青柳　未愛 | スポーツクライミング | 2023年　4月　1日 |
| 9 | 野村　洋介 | パラ水泳 | 2023年　4月　1日 |
| 10 | 宇田　幸矢 | 卓球 | 2023年　4月　1日 |
| 11 | 内藤　智文 | スキー | 2023年　7月 20日 |
| 12 | 安達　拳汰 | インラインホッケー | 2023年 10月　1日 |
| 13 | 木村　美貴 | パラフェンシング | 2023年 10月　1日 |

**図表 43　調布市応援アスリート（令和５年１２月１日現在）　※敬称略・認定順**

## 基本施策３－２　トップスポーツチーム等との連携によるスポーツ振興等の推進

FC東京をはじめ，市と連携協定を締結している東芝ブレイブルーパス東京，東京サントリーサンゴリアス，読売巨人軍や，NTT 東日本バドミントン部などのトップスポーツチームと連携・協働し，トップアスリートとの交流機会やトップスポーツの観戦・応援機会を創出します。

また，トップスポーツチーム等とのパートナーシップの強化により，市民スポーツの振興はもとより，青少年の健全育成，文化，福祉，地域経済活性化等の様々な分野で連携したまちづくりに取り組みます。

### 取組　トップアスリートとの交流機会の創出

トップアスリートによるスポーツ教室の実施や多様なスポーツイベントにおけるトップアスリートとの交流を通じて，スポーツへの興味・関心を喚起し，スポーツをはじめるきっかけづくりを行います。また，トップアスリートとの交流を通して，次代を担う子どもたちへ，夢や希望，そして多くの学びを届けます。

東芝ブレイブルーパス東京
学校訪問

＜主な事業＞

- トップスポーツチームによる学校訪問等の実施
- トップアスリートによるスポーツ教室の実施
- 多様なスポーツイベントにおけるトップアスリートとの交流機会の創出

### 取組　トップスポーツの観戦・応援機会の創出

トップスポーツチーム等との連携により，市民がトップスポーツを観戦する機会を創出します。また，シティラッピングや，多様な分野でのトップスポーツチームとの連携による取組などを通して，市民とトップスポーツチームとの接点を生み出すことで，市民のチームへの愛着や，チームの地域への愛着を育み，スポーツを核としたまちづくりを推進します。

ラグビーリーグワン観戦バスツアー（秩父宮ラグビー場）

読売巨人軍調布市フェスタ

＜主な事業＞

- 市民観戦事業の実施（FC東京，東芝ブレイブルーパス東京，東京サントリーサンゴリアス，読売巨人軍など）
- トップスポーツチームとの連携による多様な分野でのまちづくりの推進（FC東京青赤ストリートの開催など）

## 取組 トップスポーツチーム等とのパートナーシップの強化

豊富なスポーツ資源を活用したまちづくりの推進に向けては，トップスポーツチーム等との連携が不可欠です。また，近年では近隣自治体との連携や，スポーツ分野以外のステークホルダーとの協働による取組も増加しています。こうした取組を更に発展させるべく，トップスポーツチームの地域貢献活動への支援や，ステークホルダー間のコミュニケーションの円滑化，また双方 Win-Win な関係の継続など，各主体とのパートナーシップの強化に向けて取り組みます。また，トップスポーツチームとの連携については，その連携効果を高められるような取組を検討します。

ラグビー５者協定締結式

読売巨人軍との連携協定締結式

**＜主な事業＞**

- トップスポーツチームによる地域貢献活動への支援
- FC東京との連携に向けた庁内プロジェクトチームや情報交換会，ホームタウン6市との行政分科会の開催などによるステークホルダー間の連携の円滑化
- ラグビー3市協議会
- トップスポーツチームとの連携効果を高める取組の検討

## 基本施策３－３　多摩地域の一大スポーツ拠点を活用したスポーツ振興等の推進

市内の東京スタジアム（スタジアム）や武蔵野の森総合スポーツプラザを含むエリアは，多摩地域の一大スポーツ拠点となっており，ラグビーワールドカップ 2019 や東京 2020 大会が開催され，大会開催を象徴する場所として「武蔵野の森オリンピック・パラリンピックパーク」と名付けられています。こうしたエリアにおいて開催される大規模スポーツイベント等の開催支援や，多様な主体と連携した地域振興の促進などを通して，市民スポーツの振興はもとより，スポーツを核としたまちのにぎわい創出や，スポーツを通した市民の交流を促進します。

### 取組　大規模スポーツイベント等の開催支援

大規模スポーツイベントの誘致や開催支援，トップスポーツチームとの連携を通じ，市民が一流のプレーを観戦する機会や，市民がスポーツによる夢や希望，感動を共有する機会を創出します。また，トップスポーツチーム等の多様な主体と連携し，ホームゲームやイベント等への集客促進を支援することで，交流人口の拡大を目指します。

＜主な事業＞

- 大規模スポーツイベント等の開催支援
- 市民観戦事業の実施

### 取組　大規模スポーツイベント等と連携した地域振興の促進

市ゆかりのアスリートや，市に拠点を置くトップスポーツチームの存在や活躍は，シビックプライドの醸成につながります。その活動や試合の開催等により，多くの人が地域に集まり，様々な消費を中心とした経済効果を生むなど，まちのにぎわい創出や，地域経済活性化，また交流人口の拡大によるコミュニティの活性化など地域振興に寄与します。

トップスポーツチームをはじめ，地域や関係団体等，多様な主体と連携しながら，スポーツによる地域振興の促進に取り組みます。

＜主な事業＞

- トップスポーツチームと連携した地域振興促進の取組
- 大規模スポーツイベント等との連携による取組

**コラム：青赤ストリート**

市は，ＦＣ東京をはじめ，地域住民や商工会，観光協会，スポーツ協会など地域の関係団体と連携して「調布市×ＦＣ東京まちづくり実行委員会」を設置し，市のスポーツ振興及び産業振興を目的に，官民連携の下「青赤ストリート」を開催しました。

「青赤ストリート」はＦＣ東京のホームゲームに併せて開催しています。飛田給駅から味の素スタジアムまでを歩行者専用道路とし，調布市の PR ブースやキッチンカーの出店，多くの市内事業者の出店するマルシェの展開，また，特設ステージでの市内団体等による各種パフォーマンスの実施など，多種多様な内容でファン・サポーターの方はもちろん，地域の方々にも楽しんでいただけるイベントです。

「青赤ストリート」の開催は，ＦＣ東京と積み重ねてきた関係性なくしては実現出来なかったイベントです。市では 1999 年のＦＣ東京クラブ創設時から連携をスタートとし，２０年以上経過した現在では 40 以上の連携事業を実施しています。

市では今後もＦＣ東京と連携し，スポーツ振興のみならず青少年の健全育成，市民の健康づくり及び地域振興等の様々な面でまちづくりを推進していきます。

令和５年 10 月 28 日ＦＣ東京第３回青赤ストリート

## 基本施策３－４　大規模スポーツイベントのレガシーの活用

ラグビーワールドカップ 2019 及び東京 2020 大会を契機として構築・発展した様々なパートナーシップを活用・発展させ，スポーツ分野のみならず，青少年健全育成，文化，平和，福祉，地域経済活性化等，他分野間の連携を促しながら，多様な主体との連携・協働によるまちのにぎわい創出や市民の交流を促進します。

また，パラリンピックレガシーである「パラハートちょうふ」の理念に基づき，障害当事者の運動機会創出やパラスポーツの普及・啓発，デフリンピックを契機とした取組の推進などを通して，共生社会の充実を図ります。

### 取組　大規模スポーツイベントを契機とした多様な主体とのパートナーシップの活用・発展

大規模スポーツ大会を契機とした多様な主体との連携による取組を継続・発展させ，更なるスポーツ振興へつなげます。

また，ラグビーワールドカップ 2019 のレガシーである東芝ブレイブルーパス東京，東京サントリーサンゴリアス，調布市，府中市，三鷹市とのラグビー5者連携協定や，東京 2020 大会を契機とした日本車いすバスケットボール連盟との連携協定など，大規模スポーツイベントを契機とした多様な主体とのパートナーシップの活用・発展を図ります。

＜主な事業＞

- 東芝ブレイブルーパス東京，東京サントリーサンゴリアス，調布市，府中市，三鷹市によるラグビー5者協定の活用
- ラグビーとの地域協創を推進する自治体連携協議会（通称：自治体ワンチーム）の活用
- 東京都市町村ボッチャ大会の継続開催
- 東京2020オリンピック自転車ロードレースのレガシーの活用
- スポーツボランティアネットワークの活用
- 日本車いすバスケットボール連盟との相互協力協定の活用
- 武蔵野の森総合スポーツプラザと連携した取組の継続

## 取組 パラリンピックレガシーである「パラハートちょうふ」の取組推進

東京 2020 大会の大会ビジョンには,「多様性と調和」という基本コンセプトが掲げられました。市は, 大会開催を契機として, 共生社会の重要性をこれまで以上に発信するため,「パラハートちょうふ」を掲げながら様々な分野で取組を展開しています。

パラハートちょうふ

つなげよう, ひろげよう,
共に生きるまち

この「パラハートちょうふ」には,「市内外の多くの方々が障害に対する理解を深め, 一人一人が寄り添い, 手を取り合って暮らせる共生社会を充実させたい」という思いを込めて取組を展開してきました。市は, この考え方を更に発展させ, すべての人が障害の有無, 国籍, 性別などによって分け隔てられることなく, 一人一人の個性が尊重され暮らしやすいまちを目指します。

スポーツ分野においては, 障害当事者の運動機会創出や, パラスポーツの普及・啓発, デフリンピックを契機とした取組の推進等を通して, 共生社会の充実を図ります。

＜主な事業＞

- 「パラハートちょうふ」の理念に基づいた取組の推進

## 取組 他分野間連携の推進

ラグビーワールドカップ 2019, 東京 2020 大会と世界最大級のスポーツイベントが市内で開催されることを契機に, 大会の準備段階から開催後にわたり長期的・継続的に享受できる有形・無形のレガシーを創出するため, 調布市アクション＆レガシープランに掲げた5つのテーマに基づく取組を展開しました。

ビッグハートプロジェクト
（スポーツ×アート）

各分野における取組については, スポーツをハブとして（「スポーツ×〇〇」), 青少年の健全育成, 文化, 福祉, 地域経済活性化等の様々な分野と連携した取組を推進します。

ピースメッセンジャージュニアの
取組（スポーツ×平和）

＜主な事業＞

- スポーツ×福祉
- スポーツ×文化・国際交流・平和
- スポーツ×まちづくり
- スポーツ×産業・観光振興
- スポーツ×教育・青少年の健全育成　など

**コラム：東京都市町村ボッチャ大会**

障害の有無や年齢・性別などにかかわらず，誰もが同じルールのもとで楽しむことができるボッチャ。東京都市町村ボッチャ大会は，東京 2020 大会の多摩地域での開催決定をきっかけとして，東京都市オリンピック・パラリンピック連絡協議会の提案のもと 2019 年に始まりました。

東京 2020 大会終了後も，ボッチャを広く多摩地域で実施することで，多摩地域全体における大会のレガシーとして，パラスポーツも含めたインクルーシブスポーツの普及・啓発を図っていくことを目的に，引き続き多摩地域の市町村が連携して開催しています。

東京都市町村ボッチャ大会（令和４年度）

**コラム：車いすバスケットボール連盟との協定**

市では，東京 2020 パラリンピック競技大会の車いすバスケットボールの市内開催を見据え，平成 30 年度から天皇杯や三菱電機 WORLD CHALLENGE CUP の開催などを通じ，一般社団法人日本車いすバスケットボール連盟と相互協力関係を構築してきました。そして，令和元年８月，市と同連盟は車いすバスケットボールを通じた障害者スポーツの発展・振興事業，共生社会の実現に資する事業などについて相互協力に関する協定を締結しました。

東京 2020 大会開催の翌年からは，市と同連盟に競技会場となった武蔵野の森総合スポーツプラザを加えた三者の連携により，大会のレガシー継承・発展と障害者スポーツの振興，共生社会のさらなる充実を目指し「車いすバスケットボール Chofu エキシビションマッチ in むさプラ」を開催。トップチームによるエキシビションマッチや車いすバスケットボール体験を実施しています。

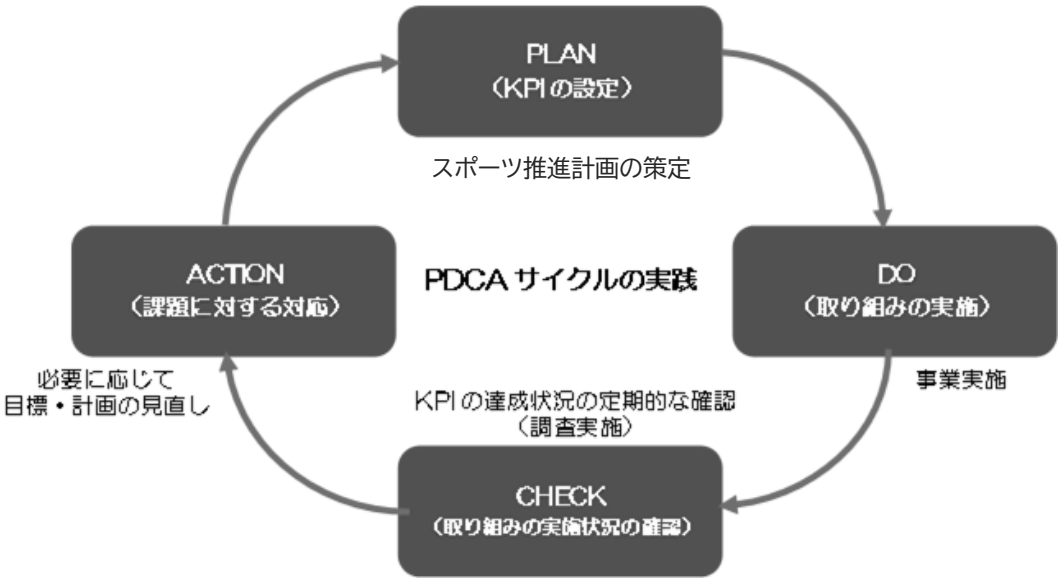
協定締結式（令和元年８月）

エキシビションマッチ

# 第５章　計画の着実な推進

# 1　推進体制

本計画に掲げる取組は，市が牽引役となり，調布市スポーツ協会や調布市スポーツ推進委員会，総合型地域スポーツクラブである調和 SHC 倶楽部などのスポーツ関係団体，トップスポーツチーム，民間企業，大学等，様々な主体との連携・協働によって推進します。

## 2　進行管理

- 本計画の着実な推進に向けては，上位計画である調布市基本計画に掲げるスポーツ施策に基づき展開するものとします。また，行革プラン 2023 や調布市公共施設マネジメント計画に基づき，スポーツ施設の整備やスポーツ施設利用者の利用環境向上に取り組むものとします。
- 各基本目標に掲げる成果指標の推移については，スポーツ振興課が取りまとめ，スポーツ推進審議会を活用して定期的に進捗報告等を行うものとします。
- こうした取組の実施状況の確認を踏まえ，必要に応じて計画の見直しを行っていくことで，PDCA サイクルを活用した計画推進に取り組んでいくこととします。